

財団法人 可児市文化芸術振興財団・アニュアルレポート

KANI CITY ARTS FOUNDATION・ANNUAL REPORT

2009



財団法人 可児市文化芸術振興財団

も く じ

はじめに

「人間」を真ん中に据えた劇場経営に向かう。

I 財団法人可児市文化芸術振興財団の概要

- 1 役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 組織体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 平成 21 年度決算状況・・・・・・・・・・ 3
- 4 職員による諸活動・・・・・・・・・・・・・12

II 可児市文化創造センター運営状況

- 1 施設利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 2 来館者実績表・・・・・・・・・・・・・・・15
- 3 視察対応表・・・・・・・・・・・・・・・16

III 平成 21 年度事業報告

- 1 事業分類表に基づく実績報告・・・・・・17
- 2 事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 3 新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・60
- 4 アーラフレンドシップ会員集計表・・・・77

IV 事業評価及び経済波及効果に関する調査(抜粋)・・・・・・78

IV 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

はじめに

平成 14 年 7 月に可児市文化創造センターがオープンして以来 8 年が経過しました。この間、多数の皆様にご利用いただくなど順調に運営できましたことに対して、市民の皆様をはじめとして関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 21 年度は公立の文化施設の使命としてこれまでの文化芸術の振興に加えて、可児市のまちづくりに貢献することを標榜し、福祉施設、学校、高齢者施設などへのアウトリーチやワークショップなどを活発に行う「アーラまち元気プロジェクト」を展開しました。また継続して新日本フィルハーモニー交響楽団、劇団文学座との地域拠点契約による各種事業、多数の市民参加によるダンスパフォーマンス「オーケストラで踊ろう」、アーラでの自主制作公演第二弾「岸田國士小品選」（音無美紀子、麻丘めぐみ主演）など可児市独自の文化芸術の普及事業を行いました。

文化芸術を振興することにより 1 人ひとりの市民が豊かな心を醸成し潤いのある可児市に貢献できるよう時間はかかりますが、今後も活動してまいりたいと思います。

この報告書は平成 21 年度の当財団の事業を取りまとめたものです。可児市の文化芸術の振興はもとより、当財団が可児市のまちづくりに貢献し、市民生活に潤いをもたらすために活用していただければ幸いです。

財団法人可児市文化芸術振興財団

理事長 山 田 隆 治

「人間」をど真ん中に据えた劇場経営に向かう。

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督 衛 紀生

「時間がない」という思いに駆られて走ってきた2年間が终えます。あっという間の2年間、という思いと、まだまだ2年間、が交差しています。90年代に英国で目の当たりにしたウエストヨークシャー・プレイハウス(WYP)という地域劇場から受けたカルチャー・ショックが、アーラの下絵となっています。市民が誇りに思っている劇場、そういう市民に応えたプログラムを広くコミュニティに行き渡らせている劇場 — こんな地域劇場が日本にあったら素晴らしいと思ったことがアーラ経営の原点です。可児市民がアーラのある可児市を誇りに思い、差別や貧困、国籍の違いや年齢の違いや男女の違いを、すべての「違い」を豊かさに変換できる装置としてのアーラ — 私が目指す地域劇場の理想は、そういう社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の拠点施設としての公共性の高い劇場です。

平成21年度、アーラを訪れた人は約273,000人になりました。前年度からは約5,000人増です。市民1人が1年間に2.7回アーラにいらっしやったことになります。この数字は、私の目標とするWYPに「あと一歩」のところまで来ているのではないかと考えています。私たちは、自主公演を観にいらっしやる、聴きにいらっしやるお客さまだけを「お客さま」とは考えていません。社会の「嵐や日照り」から身を避けるように羽根を休めにアーラにみえる市民も大切なお客さまであると思っています。まず、アーラは市民にとっての「広場」でありたいと考えているのです。なんとか30万人に限りなく近づきたいと思っています。

鑑賞型事業の集客率は81.3%で前年に比べ28.5ポイントの増となりました。集客数は前年対比148%です。この数値に合わせて次の数字を見ていただきたいと思います。ニッセイ基礎研究所の経年調査で私自身も初めてわかったのですが、観客の男女比率も、平成17年度に23.8:76.2だったのが平成21年度には42.7:57.3に変化しています。アーラがもたらした「新しい価値」が、市民のライフスタイルに確かな「変化」をもたらしているのです。アーラに就任した折に設定したミッションのひとつが、アーラをライフスタイルの中に織り込むことで市民の生活に変化と豊かさや安らぎをつくるということでしたから、少しは使命を果たせたのかなと思っています。また、2年目となる地域拠点契約の新日本フィルハーモニー交響楽団と劇団文学座の公演に限ると、集客率は

92.4%で、ふたつの芸術団体が可児市民の中に定着してきたことを物語っています。

同じニッセイ基礎研究所の調査で、顧客満足度が 86.6 ポイントと出ました。東京ディズニーランドが 83.2 ポイント、外食産業トップのスシローで 78.8 ポイントですから、相対評価でかなり高い数値を出せたと思っています。「推奨者」と「中立者」と「批判者」に顧客を分類して、「推奨者」から「批判者」を除いた数値を「推奨者の正味比率」(net promoter score)と言いますが、これも 30.2 ポイントときわめて高い水準をアウトプットできました。

経済波及効果は管理・主催事業での誘発係数は 1.54 と出ました。一般的な公共事業の平均誘発係数が 1.31、百万人都市である北九州市の北九州芸術劇場の誘発係数が 1.44 ですから、健闘というところでしょうか。人件費を含めた経済波及効果に、パブリシティ効果を含めると 12 億 1,500 万円となりました。ここも「健闘」と評価して良い成果ではないかと思っています。

公共的な地域劇場・ホールは、「指定管理者制度」、「平成の市町村合併」、「公益法人改革」、「劇場法制定の動向」と、近年、高いハードルが設定されて、それを一つひとつ丹念にクリアすることが求められてきました。アーラに就任してから 3 ヶ年の私の仕事は、そのハードルを越えることがアーラのブランディングと直結するとの考えに裏打ちされていました。そして、私はアーラの経営責任者として、文化芸術ではなく「人間」をど真ん中に据える経営を、すなわち市民の心に届く劇場経営を推し進めることに専心してきました。東京都が主催する「フェスティバル・トーキョー」の責任者から、「新しい公共ホール像」と言われました。そうです、私が目指しているのは、従来考えられなかったまったく新しい公共劇場の姿です。「人間＝市民」をど真ん中に据えて、市民がアーラのある可児市を誇りに思えるような劇場像です。

それには、まだまだやらなければならないことが山積しています。私のとりあえずの任期はあと 2 年です。それまでには 1 段目のロケットを切り離せる状態にまで持っていきたいと考えています。後継者の育成も私の仕事です。私の持っている多方面への人間関係をすべて職員に移せた時が、風を切って先頭を走る重圧から解放される時だと思っています。それまでしばらくは、「前へ、前へ」の姿勢を保ちながら、アーラを進化させ、市民が誇れる劇場に向かうつもりでいます。来年度と再来年度には、まったく新しい試みを全国へ向けて発信します。

今後とも、アーラを宜しく見守ってくださいますようお願いいたします。

I 財団法人可児市文化芸術振興財団の概要

1 役員名簿

(平成22年3月31日現在)

[理事]

理事長	山田 隆治	可児市副市長
副理事長	井戸 英彦	可児市教育長
理事	月村 時子	岐阜県教育委員
理事	加藤 敬司	可児市教育委員
理事	木下 栄蔵	名城大学都市情報学部長
理事	日比野 良彦	可児市商工会議所会頭
理事	渡邊 きみ子	可児市ボランティア連絡協議会会長
理事	飯田 好明	可児市文化協会会長
理事	渡邊 美由	学識経験者
理事	澤野 親司	NPO法人 a l a クルーズ理事長

[監事]

監事	加藤 純利	税理士
監事	丹羽 逸郎	可児市会計管理者

[評議員]

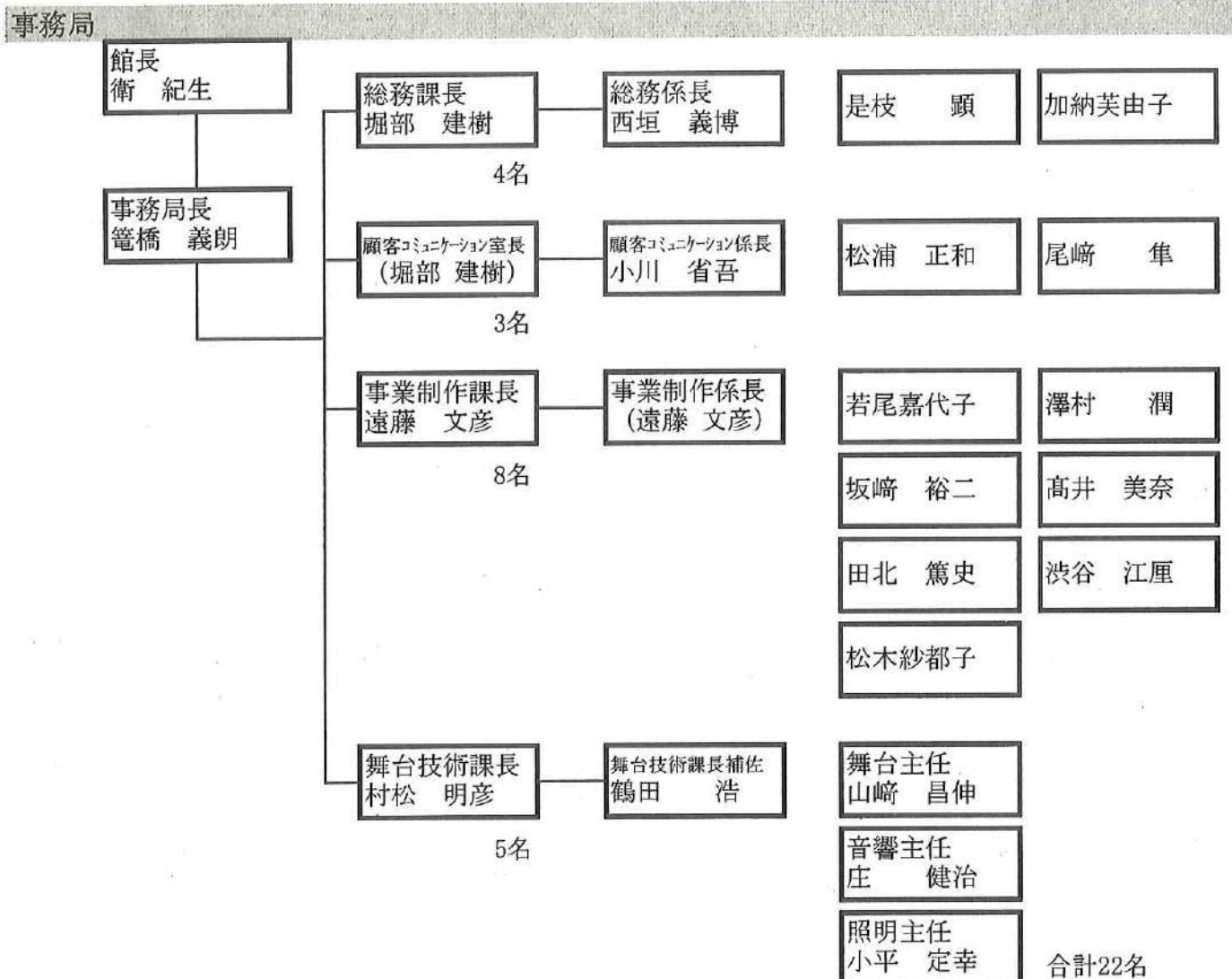
評議員	酒向 秀高	可児市自治連絡協議会役員
評議員	三宅 愛男	可児市社会教育委員代表
評議員	渡辺 曩	可児市公民館連絡協議会会長
評議員	竹本 秀也	可児市子ども会育成協議会会長
評議員	可児 敏郎	可児市社会教育視聴覚協議会会長
評議員	鈴木 秋人	可児青年会議所理事長
評議員	永田 久一	可児市小中学校校長会会長
評議員	渡辺 節明	可児商工会議所事務局長
評議員	久米 房美	NPO法人 a l a クルーズ副理事長
評議員	大澤 正幸	可児市総務部長
評議員	佐橋 雅喜	可児市教育部長

2 組織体制

(平成22年3月31日現在)

役員	理事会	理事長 山田 隆治	副理事長 井戸 英彦	理事 8名
	監事	監事 2名		

評議員会	評議員 11名
------	---------



各課の役割	
総務課	人事、経理、文書管理、規程類の管理、理事会・評議員会の事務、施設の維持管理、その他庶務
顧客コミュニケーション室	貸館、チケット管理、登録会員管理、情報コーナーの管理、広報・宣伝（ホームページ・チラシ・ポスター・月間スケジュール等）活動
事業制作課	鑑賞型・創造型事業の実施、講座系事業の実施、市民の文化芸術活動支援、専門家育成、市民ボランティア組織育成・支援
舞台技術課	【舞台】舞台機構の管理・操作、自主事業における舞台監督 【照明】舞台照明設備の管理・操作、自主事業における照明プラン・オペレート 【音響】音響設備の管理・操作、自主事業における音響プラン・オペレート

3 平成21年度決算状況

貸 借 対 照 表

財団法人可児市文化芸術振興財団

平成22年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	60,522,307	69,545,497	△ 9,023,190
現金	1,753,340	6,089,080	△ 4,335,740
当座預金	0	38,213	△ 38,213
普通預金	58,768,967	63,388,814	△ 4,619,847
郵便振替口座	0	29,390	△ 29,390
未収金	19,844,888	6,544,733	13,300,155
仮払金	6,514,650	5,925,620	589,030
立替金	273,000	0	273,000
商品	1,385,740	1,560,832	△ 175,092
流動資産合計	88,540,585	83,576,682	4,963,903
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	90,007,851	89,931,015	76,836
基本財産積立預金	9,992,149	10,068,985	△ 76,836
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	15,357,660	15,357,660	0
特定資産合計	15,357,660	15,357,660	0
(3) その他の固定資産			
車両運搬具	5,019,000	5,019,000	0
車両運搬具減価償却累計額	△ 4,816,560	△ 4,653,288	△ 163,272
什器備品	286,020	286,020	0
什器備品減価償却累計額	△ 277,439	△ 274,579	△ 2,860
預託金	25,910	25,910	0
ソフトウェア	0	610,995	△ 610,995
その他の固定資産合計	236,931	1,014,058	△ 777,127
固定資産合計	115,594,591	116,371,718	△ 777,127
資産合計	204,135,176	199,948,400	4,186,776
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	34,887,278	37,546,141	△ 2,658,863
前受金	12,650,500	6,151,789	6,498,711
預り金	14,731,312	25,197,605	△ 10,466,293
流動負債合計	62,269,090	68,895,535	△ 6,626,445
2. 固定負債			
退職給付引当金	15,357,660	15,357,660	0
固定負債合計	15,357,660	15,357,660	0
負債合計	77,626,750	84,253,195	△ 6,626,445
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
その他寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	26,508,426	15,695,205	10,813,221
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	126,508,426	115,695,205	10,813,221
負債及び正味財産合計	204,135,176	199,948,400	4,186,776

正味財産増減計算書

財団法人可児市文化芸術振興財団

(単位：円)

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	[988,247]	[983,989]	[4,258]
基本財産受取利息	988,247	983,989	4,258
② 事業収益	[96,055,684]	[77,391,308]	[18,664,376]
入場料収益	49,286,650	42,431,485	6,855,165
参加料等収益	480,000	163,500	316,500
講座受講料収益	902,439	1,249,361	△ 346,922
物品等販売収益	11,486,291	385,901	11,100,390
利用料金収益	33,526,848	33,062,374	464,474
販売手数料収益	373,456	98,687	274,769
③ 受取補助金等	[503,701,091]	[497,700,000]	[6,001,091]
受取国補助金	15,701,091	10,200,000	5,501,091
受取その他公益団体補助金	4,500,000	0	4,500,000
文化振興事業受託収益	5,500,000	5,500,000	0
指定管理受託収益	478,000,000	482,000,000	△ 4,000,000
④ 受取負担金	[1,454,500]	[885,000]	[569,500]
受取負担金	954,500	835,000	119,500
受取協賛金	500,000	50,000	450,000
⑤ 受取寄付金	[3,000,000]	[0]	[3,000,000]
受取公益団体寄付金	3,000,000	0	3,000,000
⑥ 雑収益	[7,517,376]	[2,491,607]	[5,025,769]
雑収益	7,517,376	2,491,607	5,025,769
経常収益計	612,716,898	579,451,904	33,264,994
(2) 経常費用			
① 事業費	[168,014,343]	[136,833,743]	[31,180,600]
鑑賞事業費	(94,772,328)	(74,048,814)	(20,723,514)
食料費	536,714	639,702	△ 102,988
旅費交通費	863,300	937,390	△ 74,090
通信運搬費	15,000	20,950	△ 5,950
消耗品費	813,642	516,215	297,427
印刷製本費	2,158,180	2,536,045	△ 377,865
賃借料	1,557,925	652,020	905,905
諸謝金	1,029,443	612,387	417,056
租税公課	72,000	70,000	2,000
支払負担金	6,200	93,400	△ 87,200
委託費	86,769,009	66,458,358	20,310,651
手数料	675,915	1,199,347	△ 523,432
広告料	268,000	313,000	△ 45,000
雑費	7,000	0	7,000
創造事業費	(73,242,015)	(62,784,929)	(10,457,086)
臨時雇賃金	106,875	899,644	△ 792,769
食料費	818,237	651,202	167,035
旅費交通費	5,407,080	4,061,970	1,345,110
通信運搬費	936,038	504,739	431,299
消耗品費	1,704,218	3,235,142	△ 1,530,924
印刷製本費	2,827,761	4,140,036	△ 1,312,275
燃料費	47,414	87,665	△ 40,251
賃借料	10,837,488	6,956,750	3,880,738
保険料	151,860	187,000	△ 35,140
諸謝金	4,199,887	6,616,320	△ 2,416,433

正味財産増減計算書

財団法人可児市文化芸術振興財団

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
租税公課	9,000	24,800	△ 15,800
支払負担金	148,064	157,535	△ 9,471
支払助成金	7,490,000	2,100,000	5,390,000
委託費	36,729,441	31,629,651	5,099,790
手数料	1,235,402	943,725	291,677
広告料	593,250	588,250	5,000
雑費	0	500	△ 500
② 管理費	[433,889,334]	[441,045,537]	[△ 7,156,203]
管理受託事業費	(187,781,799)	(194,656,538)	(△ 6,874,739)
消耗品費	5,226,847	5,264,047	△ 37,200
修繕費	3,376,501	3,062,149	314,352
光熱水費	44,689,102	49,152,480	△ 4,463,378
賃借料	2,407,860	2,233,980	173,880
委託費	131,962,739	134,900,382	△ 2,937,643
手数料	118,750	43,050	75,700
雑費	0	450	△ 450
総務管理費	(246,107,535)	(246,388,999)	(△ 281,464)
給料手当	139,792,160	138,738,963	1,053,197
臨時雇賃金	1,978,273	2,004,454	△ 26,181
福利厚生費	21,930,502	20,710,314	1,220,188
食料費	52,310	63,120	△ 10,810
旅費交通費	397,710	1,295,670	△ 897,960
通信運搬費	2,145,630	2,456,120	△ 310,490
減価償却費	777,127	1,016,545	△ 239,418
消耗品費	1,939,511	2,080,840	△ 141,329
修繕費	361,617	399,740	△ 38,123
印刷製本費	6,535,378	7,148,816	△ 613,438
燃料費	374,981	341,850	33,131
賃借料	2,801,130	3,218,589	△ 417,459
保険料	804,400	794,450	9,950
諸謝金	151,082	153,333	△ 2,251
租税公課	10,135,200	10,983,700	△ 848,500
支払負担金	576,747	253,732	323,015
委託費	49,631,414	50,031,450	△ 400,036
手数料	5,722,363	4,690,313	1,032,050
雑費	0	7,000	△ 7,000
経常費用計	601,903,677	577,879,280	24,024,397
当期経常増減額	10,813,221	1,572,624	9,240,597
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	10,813,221	1,572,624	9,240,597
一般正味財産期首残高	15,695,205	14,122,581	1,572,624
一般正味財産期末残高	26,508,426	15,695,205	10,813,221
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産期末残高	100,000,000	100,000,000	0
III 正味財産期末残高	126,508,426	115,695,205	10,813,221

財務諸表に対する注記

財団法人可児市文化芸術振興財団
平成22年 3月31日現在

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券…償却原価法（定額法）によっている。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は、原価法であり、評価方法は、最終仕入原価法で行っている。

(3) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

退職給付引当金…全職員が期末に自己都合退職すると仮定して算出した必要額から、独立行政法人勤労者退職金共済機構・中小企業退職金共済事業本部への掛金に基づき算出した退職金相当額を控除した残額に相当する額を計上している。

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が、借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
投資有価証券	89,931,015	20,081,920	20,005,084	90,007,851
基本財産積立預金	10,068,985	24,140,059	24,216,895	9,992,149
小計	100,000,000	44,221,979	44,221,979	100,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	15,357,660	0	0	15,357,660
小計	15,357,660	0	0	15,357,660
合計	115,357,660	44,221,979	44,221,979	115,357,660

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般正味 財産からの充当 額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
投資有価証券	90,007,851	90,007,851	0	0
基本財産積立預金	9,992,149	9,992,149	0	0
小計	100,000,000	100,000,000	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	15,357,660	0	0	15,357,660
小計	15,357,660	0	0	15,357,660
合計	115,357,660	100,000,000	0	15,357,660

4 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金						
受取国補助金（芸術拠点形成事業）	文化庁	—	2,500,000	2,500,000	—	—
受取国補助金（芸術拠点形成事業）	文化庁	—	7,500,000	7,500,000	—	未収金
受取国補助金（舞台芸術の魅力発見事業）	文化庁	—	5,701,091	5,701,091	—	未収金
受取その他公益団体補助金	財団法人地域創造	—	4,500,000	4,500,000	—	—
負担金						
受取負担金（新日フィル高齢者大学出演負担金）	可児市（生涯学習課）	—	94,500	94,500	—	—
受取負担金（岐阜県高等学校演劇大会負担金）	岐阜県高等学校文化連盟	—	300,000	300,000	—	—
受取負担金（新日フィル岐阜県オーケストラフェスティバル出演負担金）	岐阜県アマチュアオーケストラ連盟	—	60,000	60,000	—	—
受取負担金（共催公演観劇料）	可児市立広見小学校	—	335,000	335,000	—	—
受取負担金（共催公演観劇料）	可児市立東明小学校	—	165,000	165,000	—	—
合計		—	21,155,591	21,155,591	—	—

財 産 目 録

財団法人可児市文化芸術振興財団

平成22年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	1,753,340	
東濃信用金庫可児支店普通預金	58,768,967	
未収金：文化庁芸術拠点形成事業契約金等	19,844,888	
仮払金：消費税・地方消費税等	6,514,650	
立替金：「オーケストラで踊ろう」チケット料金	273,000	
商品：森山威男クインテットライブDVD 外3件	1,385,740	
流動資産合計		88,540,585
2 固定資産		
基本財産		
投資有価証券：中期利付国債5年 5本	90,007,851	
基本財産積立預金：東濃信用金庫可児支店	9,992,149	
基本財産合計	100,000,000	
特定資産		
退職給付引当預金：東濃信用金庫可児支店	15,357,660	
特定資産合計	15,357,660	
その他固定資産		
車両運搬具：貨物自動車 外2件	5,019,000	
車両運搬具減価償却累計額	△ 4,816,560	
什器備品：会計システム用パソコン	286,020	
什器備品減価償却累計額	△ 277,439	
預託金	25,910	
その他固定資産合計	236,931	
固定資産合計		115,594,591
資産合計		204,135,176
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金：中部電力電気料金3月分 外60件	34,887,278	
前受金：平成22年度入場料収入、講座受講料収入	12,650,500	
預り金：指定管理受託料変更額 外24件	14,731,312	
流動負債合計		62,269,090
2 固定負債		
退職給付引当金	15,357,660	
固定負債合計		15,357,660
負債合計		77,626,750
正味財産		126,508,426

収 支 計 算 書

財団法人可児市文化芸術振興財団

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
① 基本財産運用収入	[940,000]	[953,191]	[△ 13,191]
基本財産利息収入	940,000	953,191	△ 13,191
② 事業収入	[91,812,000]	[96,055,684]	[△ 4,243,684]
入場料収入	47,334,000	49,286,650	△ 1,952,650
参加料等収入	450,000	480,000	△ 30,000
講座受講料収入	748,000	902,439	△ 154,439
物品等販売収入	11,430,000	11,486,291	△ 56,291
利用料金収入	31,500,000	33,526,848	△ 2,026,848
販売手数料収入	350,000	373,456	△ 23,456
③ 補助金等収入	[504,011,000]	[503,701,091]	[309,909]
国補助金収入	16,011,000	15,701,091	309,909
その他公益団体補助金収入	4,500,000	4,500,000	0
文化振興事業受託収入	5,500,000	5,500,000	0
指定管理受託収入	478,000,000	478,000,000	0
④ 負担金収入	[1,373,000]	[1,454,500]	[△ 81,500]
負担金収入	873,000	954,500	△ 81,500
協賛金収入	500,000	500,000	0
⑤ 寄付金収入	[3,000,000]	[3,000,000]	[0]
公益団体寄付金収入	3,000,000	3,000,000	0
⑥ 雑収入	[7,114,000]	[7,517,376]	[△ 403,376]
雑収入	7,114,000	7,517,376	△ 403,376
事業活動収入計	608,250,000	612,681,842	△ 4,431,842
2. 事業活動支出			
① 事業費支出	[170,695,000]	[167,754,397]	[2,940,603]
鑑賞事業費支出	(95,152,000)	(94,347,816)	(804,184)
食料費支出	637,000	536,714	100,286
旅費交通費支出	903,000	863,300	39,700
通信運搬費支出	18,000	15,000	3,000
消耗品費支出	823,000	813,642	9,358
印刷製本費支出	2,373,000	2,158,180	214,820
賃借料支出	1,561,000	1,534,144	26,856
諸謝金支出	1,087,000	1,029,443	57,557
租税公課支出	87,000	72,000	15,000
負担金支出	80,000	6,200	73,800
委託費支出	86,514,000	86,368,278	145,722
手数料支出	709,000	675,915	33,085
広告料支出	350,000	268,000	82,000
雑支出	10,000	7,000	3,000
創造事業費支出	(75,543,000)	(73,406,581)	(2,136,419)
臨時雇賃金支出	114,000	106,875	7,125
食料費支出	819,000	818,237	763
旅費交通費支出	5,572,000	5,407,080	164,920
通信運搬費支出	980,000	936,038	43,962
消耗品費支出	1,705,000	1,704,218	782
印刷製本費支出	2,866,000	2,827,761	38,239
燃料費支出	50,000	47,414	2,586
賃借料支出	10,985,000	10,844,050	140,950
保険料支出	159,000	151,860	7,140
諸謝金支出	4,436,000	4,172,203	263,797
租税公課支出	13,000	9,000	4,000
負担金支出	170,000	148,064	21,936
助成金支出	7,490,000	7,490,000	0

収 支 計 算 書

財団法人可児市文化芸術振興財団

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
委託費支出	38,354,000	36,915,129	1,438,871
手数料支出	1,236,000	1,235,402	598
広告料支出	594,000	593,250	750
② 管理費支出	[435,855,000]	[433,197,061]	[2,657,939]
管理受託事業費支出	(188,733,000)	(187,781,799)	(951,201)
消耗品費支出	5,603,000	5,226,847	376,153
修繕費支出	3,377,000	3,376,501	499
光熱水費支出	45,247,000	44,689,102	557,898
賃借料支出	2,423,000	2,407,860	15,140
委託費支出	131,963,000	131,962,739	261
手数料支出	120,000	118,750	1,250
総務管理費支出	(247,122,000)	(245,415,262)	(1,706,738)
給料手当支出	139,793,000	139,792,160	840
臨時雇賃金支出	2,100,000	1,978,273	121,727
福利厚生費支出	22,000,000	21,930,502	69,498
食料費支出	85,000	52,310	32,690
旅費交通費支出	487,000	397,710	89,290
通信運搬費支出	2,280,000	2,145,630	134,370
消耗品費支出	2,300,000	1,939,511	360,489
修繕費支出	362,000	361,617	383
印刷製本費支出	6,829,000	6,535,378	293,622
燃料費支出	375,000	374,981	19
賃借料支出	2,990,000	2,801,130	188,870
保険料支出	900,000	804,400	95,600
諸謝金支出	130,000	130,000	0
租税公課支出	10,340,000	10,135,200	204,800
負担金支出	690,000	576,747	113,253
委託費支出	49,738,000	49,737,350	650
手数料支出	5,723,000	5,722,363	637
事業活動支出計	606,550,000	600,951,458	5,598,542
事業活動収支差額	1,700,000	11,730,384	△ 10,030,384
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
① 基本財産取崩収入	[0]	[51,920]	[△ 51,920]
基本財産積立預金取崩収入	0	51,920	△ 51,920
投資活動収入計	0	51,920	△ 51,920
2. 投資活動支出			
① 基本財産取得支出	[17,000]	[16,864]	[136]
基本財産積立預金支出	17,000	16,864	136
投資活動支出計	17,000	16,864	136
投資活動収支差額	△ 17,000	35,056	△ 52,056
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	83,000	0	83,000
当期収支差額	1,600,000	11,765,440	△ 10,165,440
前期繰越収支差額	13,120,000	13,120,315	△ 315
次期繰越収支差額	14,720,000	24,885,755	△ 10,165,755

収支計算書に対する注記

財団法人可児市文化芸術振興財団
平成22年3月31日現在

1 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、立替金、未払金、前受金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	69,545,497	60,522,307
未収金	6,544,733	19,844,888
仮払金	5,925,620	6,514,650
立替金	0	273,000
合計	82,015,850	87,154,845
未払金	37,546,141	34,887,278
前受金	6,151,789	12,650,500
預り金	25,197,605	14,731,312
合計	68,895,535	62,269,090
次期繰越収支差額	13,120,315	24,885,755

3 科目間の流用及び予備費の使用について

事業活動収支の部の予算科目のうち、次のとおり予算流用した。

科目	当初予算額	補正予算額	科目間流用額	流用後予算額
事業費－創造事業費－旅費交通費	6,284,000	△ 690,000	△ 22,000	5,572,000
事業費－創造事業費－食料費	1,297,000	△ 500,000	22,000	819,000
事業費－創造事業費－通信運搬費	214,000	800,000	△ 34,000	980,000
事業費－創造事業費－消耗品費	1,971,000	△ 300,000	34,000	1,705,000
事業費－創造事業費－諸謝金	7,059,000	△ 2,500,000	△ 123,000	4,436,000
事業費－創造事業費－手数料	643,000	470,000	123,000	1,236,000
事業費－創造事業費－委託費	40,322,000	△ 1,874,000	△ 94,000	38,354,000
事業費－創造事業費－広告料	500,000	0	94,000	594,000
管理費－管理受託事業費－消耗品費	5,000,000	680,000	△ 77,000	5,603,000
管理費－管理受託事業費－修繕費	3,000,000	300,000	77,000	3,377,000
管理費－総務管理費－旅費交通費	1,950,000	△ 1,400,000	△ 63,000	487,000
管理費－管理受託事業費－委託費	131,400,000	500,000	63,000	131,963,000
管理費－管理受託事業費－光熱水費	51,240,000	△ 5,300,000	△ 693,000	45,247,000
管理費－総務管理費－給料手当	141,600,000	△ 2,500,000	693,000	139,793,000
管理費－総務管理費－食料費	100,000	0	△ 15,000	85,000
管理費－総務管理費－燃料費	360,000	0	15,000	375,000
管理費－総務管理費－印刷製本費	7,990,000	△ 700,000	△ 461,000	6,829,000
管理費－総務管理費－委託費	48,177,000	1,100,000	461,000	49,738,000
管理費－総務管理費－修繕費	700,000	0	△ 338,000	362,000
管理費－総務管理費－賃借料	3,035,000	0	△ 45,000	2,990,000
管理費－総務管理費－手数料	4,340,000	1,000,000	383,000	5,723,000

4 予備費の充用について

投資活動収支の予算科目のうち、次のとおり予備費を充用した。

科目	当初予算額	補正予算額	科目間流用額	流用後予算額
予備費	100,000	0	△ 17,000	83,000
基本財産取得支出－基本財産積立預金支出	0	0	17,000	17,000

4 職員による諸活動

日 付	活 動 内 容	職 員
4月3日	文化経済学会<日本>可児研究大会についての理事会（京都市）	衛 紀生
4月6日	日本照明家協会文部科学大臣賞審査会	衛 紀生
4月11日	ピッコロシアター40周年記念誌『進化する劇場をつくる難しさ』	衛 紀生
4月20日	米国ビジネス誌『Forbes』インタビュー記事「新時代のフロントランナー」取材	衛 紀生
4月23日	愛知県公立文化施設協議会（豊橋市）講演「経験価値を軸にすえた劇場経営」	衛 紀生
5月13日 ～23日	英国地域劇場視察・協議 リーズ市・ウエストヨークシャー・プレイハウス 提携に向けての協議 ロンドン五輪芸術監督ジュード・ケリー氏表敬訪問と『向日葵の柩』のプレゼンテーション	衛 紀生
5月30日	武豊町ゆめたろうプラザ文化講演会	衛 紀生
6月13日	文化経済学会 基調講演「経験価値創造経営の全体像」	衛 紀生
6月24日、 7月1日	東京芸術大学演奏芸術センター特別講義 「アーラの挑戦・劇場経営の実際」	衛 紀生
6月26日	（社）日本劇団協議会理事会	衛 紀生
7月4日	八尾市プリズムホール『向日葵の柩』関連企画 対談「演劇のシアワセ」	衛 紀生
7月7日	ニッセイバックステージ賞審査会	衛 紀生
8月8日	豊橋市舞台技術講座 『向日葵の柩』関連企画 朝倉摂氏との対談	衛 紀生
8月9日	長岡市文化芸術振興財団市民参加劇『夜明けのフェニックス』市民オーディション審査員	衛 紀生
8月22日	『向日葵の柩』豊橋公演プレ企画「制作大解剖」講師	澤村 潤
9月1日	『向日葵の柩』地方公演東京稽古顔寄せ	衛 紀生
9月3日	（財）地域創造ステージラボ&文化政策幹部セミナー 「公共ホール・劇場マネージャーコース」講演 「文化政策幹部コース」講演	衛 紀生
9月28日	文学座『定年ゴジラ』パンフレット原稿『演出家・西川信廣のこと』	衛 紀生
9月29日	『向日葵の柩』ピッコロシアター公演アフタートーク	衛 紀生
10月1日	八尾市プリズムホール文学座地域拠点契約締結におけるアーラとの連携協議	衛 紀生
10月27日	財団法人たんぼぼの家 講演「公共文化施設における障害のある人のアート活動の可能性」	衛 紀生
11月4日	文学座研究所 講義	衛 紀生
11月9日	芸術文化振興基金 地域文化活動専門委員会審査会	衛 紀生
11月15日	阿南市「夢ホール市民協議会ゆめつくりあなん」講演	衛 紀生
11月21日	（社）日本劇団協議会機関誌『JOIN』 「市民との関わり合いから生まれる創造環境の豊かさ」	衛 紀生
11月30日	全国市町村職員研修所機関誌「アカデミア」特集 文化による地域創造都市「芸術の殿堂より人間の家を」	衛 紀生
12月7日	（社）日本劇団協議会理事会	衛 紀生
12月15日	（社）日本劇団協議会・地域と演劇委員会	衛 紀生
12月21日	内閣官房参与平田オリザ氏との懇話会	衛 紀生
12月24日	芸術文化選奨文部科学大臣賞・新人賞審査会	衛 紀生
1月18日	世田谷パブリックシアター研修生アーラ視察講師	衛 紀生
1月21日	芸術文化選奨文部科学大臣賞・新人賞審査会	衛 紀生

日 付	活 動 内 容	職 員
1月22日	文化経済学会<日本>理事会	衛 紀生
1月23日	全国ボランティアフォーラム記念講演	衛 紀生
2月3日	文学座アーツマネジメントセミナー	衛 紀生
2月10日	広島県文化振興財団 講演「オンリーワンの劇場を目指して - アー ラにおける戦略」	衛 紀生
2月12日、13日	世界劇場会議	衛 紀生
2月16日	文化庁「アーツマネジメント重点支援事業」たざわこ芸術村 講演 「“人間の家”を目指す岐阜県可児市文化創造センターの挑戦」	衛 紀生
2月23日	芸術文化振興基金 地域文化活動専門委員会審査会	衛 紀生
3月5日	「アジア・アーツマネジメント会議」基調講演 大阪市立大学都市研 究プラザ	衛 紀生
3月12日	まちを元気にする処方箋「地域劇場の役割」 G・マッキンタイア、 S・パーキンスとの鼎談	衛 紀生
3月18日	芸術選奨文部科学大臣賞・新人賞贈賞式	衛 紀生
3月19日	(社)日本劇団協議会総会	衛 紀生

Ⅱ 可児市文化創造センター運営状況

1 施設利用状況

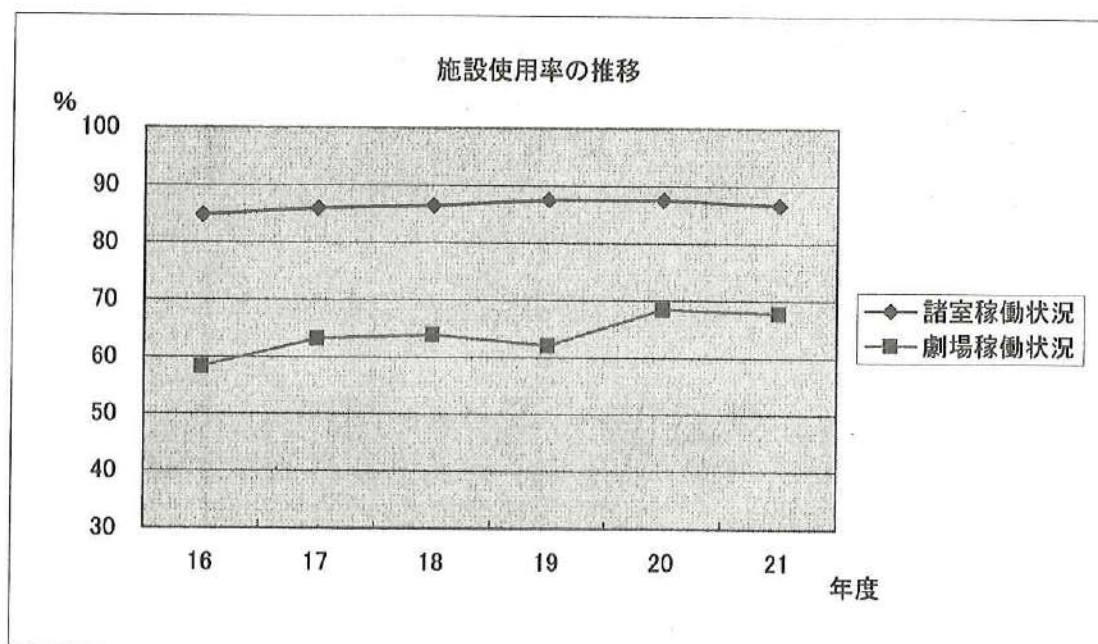
(1) 諸室稼働状況

(単位：日)

施設	平成20年度			平成21年度		
	使用日数	使用可能日数	使用率	使用日数	使用可能日数	使用率
主劇場 (宇宙のホール)	216	305	70.8%	206	306	67.3%
小劇場 (虹のホール)	202	305	66.2%	209	306	68.3%
音楽ロフト	281	305	92.1%	291	306	95.1%
演劇ロフト	294	305	96.4%	298	306	97.4%
美術ロフト	261	305	85.6%	239	306	78.1%
演劇練習室	301	305	98.7%	302	306	98.7%
音楽練習室 1	300	305	98.4%	297	306	97.1%
音楽練習室 2	283	305	92.8%	272	306	88.9%
音楽練習室 3	292	305	95.7%	290	306	94.8%
映像シアター	162	305	53.1%	170	306	55.6%
ギャラリー	245	305	80.3%	233	306	76.1%
ワークショップルーム (洋室)	303	305	99.3%	304	306	99.3%
ワークショップルーム (和室)	300	305	98.4%	300	306	98.0%
レセプションホール	300	305	98.4%	303	306	99.0%
合計	3,740	4,270	87.6%	3,714	4,284	86.7%
利用料金収入	33,062,374円			33,526,848円		

(2) 劇場稼働状況 (再掲)

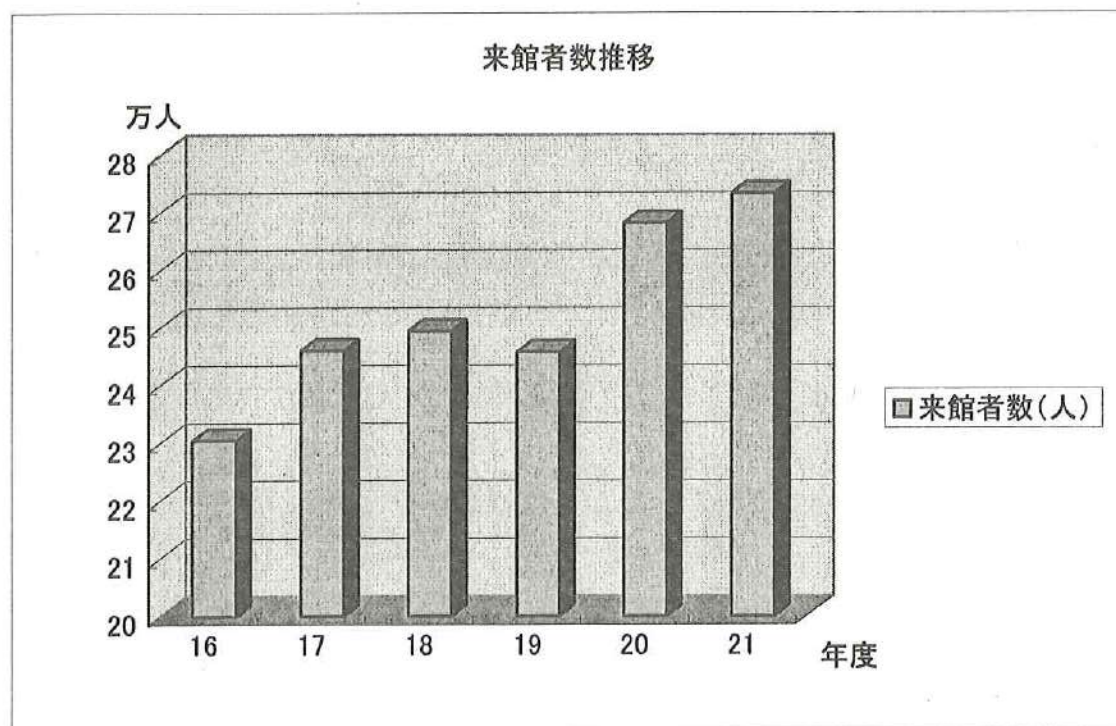
施設	平成20年度			平成21年度		
	使用日数	使用可能日数	使用率	使用日数	使用可能日数	使用率
主劇場 (宇宙のホール)	216	305	70.8%	206	306	67.3%
小劇場 (虹のホール)	202	305	66.2%	209	306	68.3%
合計	418	610	68.5%	415	612	67.8%



2 来館者実績表

(単位：人)

月	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	利用者数	同期増減率
4月	17,300	14,100	15,700	17,200	16,614	14,799	89.08%
5月	20,400	20,500	18,600	19,000	20,214	19,008	94.03%
6月	18,000	21,000	16,400	19,000	23,156	18,289	78.98%
7月	18,400	21,900	22,700	21,600	20,800	23,125	111.18%
8月	15,850	16,400	18,200	14,300	14,721	17,970	122.07%
9月	17,200	20,000	25,800	20,600	23,696	22,403	94.54%
10月	20,100	25,600	24,600	27,900	24,499	33,551	136.95%
11月	22,200	23,700	21,700	21,600	20,857	27,932	133.92%
12月	20,200	19,900	19,700	21,000	16,648	18,509	111.18%
1月	24,200	17,900	19,400	19,500	24,163	26,035	107.75%
2月	16,000	26,000	25,400	24,400	37,409	33,483	89.51%
3月	20,600	19,000	21,200	19,600	25,387	18,227	71.80%
計	230,450	246,000	249,400	245,700	268,164	273,331	101.93%
月平均	19,204	20,500	20,783	20,475	22,347	22,778	



3 視察対応表

視察日	視察者	人数	内容
4月10日	諏訪東京理科大学講師 青野氏	1	視察
4月16日	可児市新規採用職員	13	視察研修
4月22日	柏崎市新市民会館整備推進室 他	12	視察
5月3日	香山設計事務所	1	視察
6月3日	長野市	5	視察
6月24日	大成建設(株)名古屋支店	6	視察
7月2日	豊橋市	5	視察
7月6日	新宮市	10	視察
7月8日	岐阜県教育委員会	15	視察
7月10日	今渡南小学校5年生、担任	90	バリアフリー視察
7月13日	野村総研 他	4	インタビュー、視察
7月15日	下呂市	8	視察
7月15日	特定非営利法人武豊文化創造協会	4	視察
7月26日	名古屋市立大学	4	視察
7月30日	岐阜県教育委員会	10	視察
8月2日	早津博義 他1名	2	視察
8月14日	名古屋大学大学院	3	視察
8月14日	大垣市文化振興課	3	視察
8月20日	長野市議会議員	5	視察
8月21日	日本大学工学部	1	インタビュー、視察
9月11日	市広報モニター	12	視察
9月14日	EMI ミュージックジャパン	4	視察
9月19日	大垣市文化事業団	3	視察
10月9日	市政見学バス	22	視察
10月15日 ～10月16日	中部中学校	5	職場体験
10月21日	東可児中学校	20	視察、聴講
10月24日	水戸芸術館 古川氏	1	視察
10月28日 ～10月29日	美濃加茂市立東中学校	5	職場体験
10月30日	東海市市議・市幹部	17	視察
11月2日	日欧都市交流会議	20	視察
11月3日	京都大学 谷口氏	1	視察
11月9日	大府市	2	視察
11月20日	大成建設(株)名古屋支店	11	視察
12月10日	豊川市	17	視察
12月16日	市政見学バス	28	視察
12月18日	桑名市	1	視察
12月25日	金沢市文化政策課	2	視察
1月8日	名寄町	1	視察
1月14日	全国市長会	2	視察
1月15日	かわい幼稚園幼児学級	20	視察
1月18日	世田谷パブリックシアター	5	視察
1月23日	文化ボランティアコーディネーター養成講座 i n 可児	42	視察
2月8日	四国中央市	4	視察
2月10日	名古屋市文化振興室	2	視察
2月13日	神奈川県劇場会館準備室	7	視察
3月14日	九州大学	2	視察
3月21日	北上市さくらホール	1	視察
合 計		47件 (459 名)	

Ⅲ 平成 21 年度事業報告

1 事業分類表に基づく実績報告

(各項目末尾は事業件数)

政策	施策	基本事務1	基本事務2	事務事業
自主事業	鑑賞型事業	大規模な芸術鑑賞機 会の提供	演劇・舞踊系	かに寄席 納涼
				かに寄席 初席
				松竹大歌舞伎
				俳優座劇場『東京原子核クラブ』
				俳優座劇場 『十二人の怒れる男たち』
				兵庫県立ピッコロ劇団 『モスラを待って』
				文学座『定年ゴジラ』
				加藤健一事務所 『川を越えて、森を抜けて』
				能のこころ 能楽公演 『鞍馬天狗 白頭』
				コンドルズ 岐阜可児公演2009年末スペシャル
			音楽系	新日本フィルハーモニー交響楽団 サマーコンサート2009
				新日フィルハーモニー交響楽団 『オーケストラと夢のせかい』
				ウィーン・フォルクスオーパー交響楽 団ニューイヤーコンサート2010
				森山威男ジャズナイト2009
				財津和夫 LIVE & TALK
				岩崎宏美LIVE2009～Thanks～
		定期的な鑑賞機会の 提供	音楽鑑賞	音楽の絵本
				Welcome to A.G Town (2回)

内容・説明	会場	集客数 (人)	入場可能 席数	集客率 (%)	収入額 (円)	支出額 (円)	収支比率	掲載頁
柳家小三治と桂春團治という東西の大御所の豪華な寄席を堪能いただいた。	主劇場	977	993	98.4	2,386,700	2,042,426	116.9	34
襲名直前の三遊亭楽太郎と柳家さん番が出演。落語の他江戸曲独楽も楽しみたい。	主劇場	997	997	100.0	2,341,850	1,894,534	123.6	46
人気俳優片岡仁左衛門などが出演。演目は 正札附根元草摺 長唄囃子連中、義経千本桜（下市村茶店の場、同 釣瓶鮎屋の場）	主劇場	616	1,005	61.3	2,846,720	8,104,759	35.1	31
主人公の物理学者が、愚かしくも美しい青春の日々をおくる中、日本は少しずつ戦争へ…。読売文学賞受賞作品。	小劇場	192	484	39.7	360,070	4,342,193	8.3	29
少年の裁判で、陪審員が評決に達するまで一室で議論する様子を描く密室劇。	小劇場	395	472	83.7	856,620	4,132,100	20.7	39
映画の撮影現場に、意地とプライド、涙と笑いが入り乱れる、出口が見えない人間模様を描いた、可笑しくて切ないドラマ。	小劇場	229	484	47.3	3,177,170	4,760,904	66.7	41
主人公が定年してからの日々と仲間たちとの交流、そして家庭の中で自分の「居場所」を見つけるまでの苦悩を、西川信廣の演出で上演。	小劇場	512	512	100.0	1,158,520	4,881,237	23.7	43
アメリカのユニークな家族のハートウォーミングコメディ。竹下景子がおばあちゃん役として、加藤健一と仲の良い老夫婦を演じた。	主劇場	636	880	72.3	1,866,500	3,579,909	52.1	25
能楽師 中所宣夫による能「鞍馬天狗白頭」の公演。子方8人（小学生）の参加者を募集、5回の稽古を経た上で出演。	小劇場	226	270	83.7	2,442,579	3,567,435	68.5	26
TV出演等で認知度の高い「コンドルズ」のコンテンポラリーダンス。コミカルな演出で会場を沸かせた。	主劇場	691	839	82.4	1,657,700	5,191,590	31.9	44
地域拠点契約の一環となる公演。「カルメン」、「ボレロ」等の名曲を中心としたプログラムをお楽しみいただいた。	主劇場	838	1,019	82.2	6,554,300	8,236,607	79.6	30
地域拠点契約の一環となる公演。初心者向けにクラシックの名曲、アニメソング等をナレーション等を交えて披露した。	主劇場	1,006	1,019	98.7	5,345,050	6,955,181	76.8	42
平成19年度に開催した際高い評価を得た楽団。新年に相応しい曲を中心にフルオーケストラの演奏をお楽しみいただいた。	主劇場	804	1,019	78.9	4,836,100	9,275,224	52.1	45
9回目を迎えた恒例のジャズコンサート。7名のゲスト奏者を迎えて迫力満点のライブを繰り広げた。	主劇場	895	901	99.3	3,701,650	5,937,018	62.3	36
「チューリップ」のヴォーカルだった財津和夫が自身のヒット曲や提供曲など、多数の名曲を織り交ぜて世代を超えた感動を巻き起こした。	主劇場	894	984	90.9	4,394,550	6,114,804	71.9	28
「聖母たちのララバイ」等のヒット曲で知られる実力派ヴォーカリストの歌声をお楽しみいただいた。	主劇場	971	991	98.0	4,867,225	7,075,359	68.8	38
動物たちが活躍する本格的なクラシックコンサート。全国で人気のパフォーマンส์をお楽しみいただいた。	主劇場	1,007	1,007	100.0	1,012,950	1,845,620	54.9	27
可見市を代表する産業のひとつであるアコースティックギター等によるライブ。	演劇 ロフト	326	335	97.3	497,600	1,273,042	39.1	50

政策	施策	基本事務1	基本事務2	事務事業
自主事業	鑑賞型事業	定期的な鑑賞機会の提供	映画鑑賞 他 26	アール・シネマ・コレクション (10作品)
				アール映画祭2009 (16作品)
	鑑賞型事業計			
	創造型事業	24 市民活動スタッフ育成事業	2 接遇	1 フロントスタッフ研修
			事業企画	1 市民活動支援
		芸術活動支援事業 5	演劇活動支援	1 可児歌舞伎同好会支援
			アーティスト・イン・レジデンス 4	ホームカミング (演劇、クラシック)
				a l a 芸術宅配便 (演劇、クラシック)
		アーツスクール事業 16	体験型入門事業	1 公共ホール現代ダンス活性化事業
			専門講座事業 5	演劇ワークショップ
				朗読ワークショップ
				クラシックワークショップ
				歌舞伎とおしゃべりの会 (前・後期)
				森山威男ドラム道場
			総合的創作事業 4	『向日葵の柢』ツアー公演
				西川信廣演出 『岸田國士短編戯曲集』制作公演
				西川信廣演出 『岸田國士短編戯曲集』東京公演
				オーケストラで踊ろう!

内容・説明	会場	集客数 (人)	入場可能 席数	集客率 (%)	収入額 (円)	支出額 (円)	収支比率	掲載頁
懐かしの名作やミニシアター系の映画などを上映した。ボランティアの協力を得て実施。	映像 シアター	2,358	4,803	49.1	341,400	865,293	39.5	49
「映画祭実行委員会」が企画・運営して、5月にプレ上映会、9月から10月にかけて15作品を上映した。	主劇場等	5,512	8,752	63.0	4,066,710	5,254,913	77.4	35
		20,082	27,766	81.3	54,711,964	95,330,148	58.5	
研修を実施し、新人育成をすると共に、現役のalaクルーズフロントスタッフのフォローアップを図った。	主劇場等	15	-	-	0	670,916	0.0	51
市民の様々な文化芸術活動に対して、支援や助言を行った。特にalaクルーズに対しては、コンサート等の事業を通じて協力した。	-	-	-	-	0	1,947,250	0.0	
可児歌舞伎同好会の実施する講座を始めとする事業を支援した。	-	-	-	-	0	50,000	0.0	
文学座の俳優と新日本フィルハーモニー交響楽団が一般家庭へ出向き、生演奏を聴かせたり対話することで仲間の絆を深めた。	市内	56	-	-	0	511,591	0.0	
文学座の俳優と新日本フィルハーモニー交響楽団が、学校等において朗読会及び演奏を行った。	市内 各施設	650	-	-	0	2,408,394	0.0	
市内施設においてアウトリーチを行うとともに、alaにてワークショップを実施。最後に公演でワークショップ参加者と講師が共演した。	小劇場	156	174	89.7	39,000	90,490	43.1	40
演出家の西川信廣、文学座の椎原克知を講師に迎え、演劇の楽しさを知るためのワークショップを行った。	演劇 ロフト等	43	-	-	0	200,000	0.0	
文学座から俳優 金沢映子を迎え、朗読によりイメージを伝えるワークショップを4回開催した。	演劇 練習室等	21	-	-	63,000	110,360	57.1	
新日本フィル楽団員がクラシックに馴染みのない方、アマチュア音楽家のそれぞれを対象としたワークショップを実施した。	主劇場等	719	-	-	154,500	664,200	23.3	
前期は歌舞伎評論家の金森和子を、後期は、地域の地歌舞伎に詳しい吉田豊を講師に招き、講座や視察を行った。	映像 シアター	368	890	41.4	172,100	1,525,539	11.3	
日本を代表するジャズドラマー 森山威男によるドラム講座。市内外からの参加があった。	音楽 ロフト	203	-	-	612,360	1,761,215	34.8	
前年度に制作・公演した作品を豊橋市・広島市・八尾市・兵庫県の4都市で上演するとともに可児でも凱旋公演を実施。alaを全国へ発信した。	全国 4都市	1,407	2,880	48.9	17,919,131	17,841,777	100.4	37
質の高い作品を市民を巻き込んで制作。前年度に続く第2弾は岸田國士の作品を音無美紀子、麻丘めぐみ他の出演で制作した。	小劇場	1,188	1,824	65.1	10,002,720	21,201,330	47.2	47
alaで制作した演劇を東京の新国立劇場で上演。可児市及びalaの名を全国に広め、東京の演劇界から高い評価を得た。	新国立 劇場	1,354	1,692	80.0	2,259,200	5,843,729	38.7	48
可児市民、大垣市民約200名によるオーケストラとコンテンポラリーダンスのコラボレーション。実行委員会形式で実施し、大垣市でも上演。	主劇場	1,065	1,515	70.3	0	1,481,751	0.0	

政策	施策	基本事務 1	基本事務2	事務事業
自主事業	創造型事業	アーツスクール事業	地域関連事業	2 平田オリザの『対話を考える』モデル授業
				『わが町・可児』戯曲講座
			芸術祭事業	4 アーラ祭
				可児市音楽祭
				可児市美術展
				可児市文芸祭
		創造集団育成事業	1 ワークショップリーダー育成事業	1 ワークショップリーダー養成講座
	創造型事業計			
	国際交流事業	1 芸術活動支援事業	1 異文化交流事業	1 多文化共生事業
	国際交流事業計			
自主事業計	情報・交流事業	1 定期刊行物発刊事業	1 ニュースペーパー	1 広報・宣伝事業
	情報・交流事業計			
連携事業	10 教育との連携事業	2 小中学校との連携	1 小中学校との連携事業	1 劇団うりんこ学校公演
		高校との連携	1 高校との連携事業	1 市民演劇支援
	教育との連携事業計			
	民間との連携事業	7 民間各組織との連携	7 民間企画組織との連携事業	7 ウィーン V.ルジェリウスピアノ三重奏団〔共催公演〕
				GONNAコンサート〔共催公演〕
				音楽家の集い〔共催公演〕（4回）

内容・説明	会場	集客数 (人)	入場可能 席数	集客率 (%)	収入額 (円)	支出額 (円)	収支比率	掲載頁
人とのふれあいの重要性を再認識し、子どもたちのコミュニケーション能力を拡大させることを目的とした教師向けワークショップ。	音楽 ロフト	32	-	-	0	155,478	0.0	
ソーントン・ワイルダーの戯曲『わが町』を基に、可児市で起きた出来事等から地域の物語を書く講座。	演劇 ロフト等	10	-	-	30,000	166,532	18.0	
日頃alaで活動する団体と連携して開催。開館以来、初めて来館した方も多かった。	全館	3,800	-	-	32,800	1,550,622	2.1	33
10団体の出場と約700人の来場者があり、市民に定着してきた総合音楽祭。	主劇場	700	1,019	68.7	900,000	765,135	117.6	52
当財団のノウハウを活かして開催し、前年度を上回る応募作品があった。	全館	2,035	-	-	2,457,500	2,008,556	122.4	53
文芸祭賞受賞作品の「朗読会」を実施し、市民の文芸への興味の喚起に努めた。	ギャラリー等	581	-	-	2,366,000	1,803,380	131.2	54
演劇ワークショップを組み立てられる人材育成を目的とし、実践を交えて学んだ。	演劇 ロフト等	48	-	-	0	799,360	0.0	
		14,451	-	-	37,008,311	63,557,605	34.0	
ブラジル、中国、フィリピンなどから総勢60名以上が参加。ワークショップを通して演劇作品を作り上げた。	小劇場等	329	622	52.9	0	2,390,145	0.0	
		329	622	52.9	0	2,390,145	0.0	
東海地方全域を商圈とみなし、月刊情報誌ala Timesやメディアを使い、広報宣伝を行った。	-	-	-	-	33,560	14,650,435	0.2	
		-	-	-	33,560	14,650,435	0.2	
		34,862	-	-	91,753,835	175,928,333	23.2	
広見小学校、東明小学校との協働事業として劇団うりんこ『ダイヤル・ア・ゴースト』を鑑賞した。	主劇場	550	900	61.1	500,000	800,000	62.5	59
高校演劇合同公演や高校吹奏楽部の活動に対し、制作面及び舞台技術面において協力した。	小劇場	-	-	-	300,000	0	0.0	
		550	900	61.1	800,000	800,000	31.3	
例年開催しているピアノとバイオリンのコンサートを、共催事業として開催した。	小劇場	240	311	77.2	81,819	92,410	88.5	56
和太鼓とマリンバのコラボレーションが見事なGONNA（ガナ）のコンサートを、共催事業として開催した。	小劇場	181	294	61.6	96,347	102,000	94.5	55
「音楽家の集い鑑賞会」との共催により、演奏者との距離が近い空間でのコンサートを開催した。	音楽 ロフト	273	400	68.3	23,200	10,174	228.0	58

政策	施策	基本事務1	基本事務2	事務事業
連携事業	民間との連携事業	民間各組織との連携	民間企画組織との連携事業	吉鷹奈津子ピアノの夕べ 〔共催公演〕
	民間との連携事業計			
	各種まちづくり事業との連携	1 福祉との連携	1 福祉との連携事業	1 エイブル・アート展
	各種まちづくり事業との連携計			
連携事業計				
貸館事業	1 情報交流系空間	1 情報交流系空間	1 情報交流系空間	1 情報コーナー整備
貸館事業計				
財団運営管理事業	施設管理受託事業	施設管理受託事業	施設管理受託事業	施設管理受託事業
	財団運営管理事業	財団運営管理事業	財団運営管理事業	財団運営管理事業
				文化芸術調査研究事業
		課管理経費	課管理経費	事業制作共通経費
その他計				
合計（※）				

※収支計算書上、事業活動収支の部に記載される収入及び支出の合計と一致する。

内容・説明	会場	集客数 (人)	入場可能 席数	集客率 (%)	収入額 (円)	支出額 (円)	収支比率	掲載頁
地元在住でalaでは過去3回国内外のオーケストラと共演してきたピアニスト吉鷹奈津子のリサイタル。	小劇場	310	310	100.0	90,675	132,075	68.7	57
		1,004	1,315	76.7	292,041	336,659	119.9	
	美術 ロフト	772	-	-	4,915	946,960	0.5	32
		772	-	-	4,915	946,960	0.5	
		2,326	-	-	1,096,956	2,083,619	66.3	
文化芸術関連の図書やDVDを充実させ、劇場の賑わいを演出した。情報コーナーのパソコンを更新した。	情報 コーナー	-	-	-	0	532,614	0.0	
		-	-	-	0	532,614	0.0	
		-	-	-	35,211,314	187,603,167	18.8	
		-	-	-	479,374,776	230,137,799	208.3	
		-	-	-	0	805,660	0.0	
		-	-	-	5,244,961	3,860,266	135.9	
		-	-	-	519,831,051	422,406,892	123.1	
		37,188	-	-	612,681,842	600,951,458	102.0	

2 事業報告

事務事業

加藤健一事務所『川を越えて、森を抜けて』

目的 平成19年度に好評を博した加藤健一事務所『コミック・ポテンシャル』公演に続く2度目の可見公演として、今回は主演に竹下景子を迎えることで、新しい演劇ファンの獲得を目指す。

集客数 636人 席数 880席 集客率 72.3% 会場 主劇場

開催日時 平成21年4月2日(木) 18時30分開演

チケット 全席指定 一般3,500円 18歳以下 1,500円

出演者 加藤健一、竹下景子、山本芳樹、小山萌子、一柳みる、有福正志

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 作: ジョウ・ディピエトロ
訳: 小田島恒志 平川大作
演出: 高瀬久男
アメリカ・ニュージャージー州の小さな町に住む、ユニークなファミリーの生活。家族の絆や思いやりの心をあたたかく描いた、ハートウォーミング・コメディ。
終演後アフタートークを実施した。

経費状況 収入 1,866,500円 支出 3,579,909円 収益率 52.1%

アンケート
結果

- ・大変楽しかった。これからの人生とダブっているようで、考える所もありました。
- ・家族愛についてつくづく考えさせられました。
- ・にっこりする。そして心に何か残る物語でした。

課題と
今後の対応

加藤健一事務所は平成19年度に続き2度目の可見公演となる。今回は前回は上回る636人を動員した。動員が伸びた要因として、竹下景子による市長表敬訪問効果が大きい。市長表敬訪問の際に地元タウン誌2社、新聞社2社、CTKの取材や、alaの顧客への竹下景子サイン入りDMの送付など、知名度を前面に押し出したPR活動を行なった。中でも一番効果があったのは、前売直前に掲載された市長表敬訪問の記事で、発売日には相当数のチケットが売れた。但し大きく伸びたのはその記事だけで、他は掲載されても大きく数字を伸ばすことは無く、日々徐々に売れるといった状況が続いた。このように本公演では様々な媒体で紹介されたため、その効果の一つ一つ販売データなどから検証することが、次のPR戦略に繋がると考える。



目的 能が長年にわたって養ってきた身体の使い方は、人間の内的な力を強めるものである。又、武士の礼節を基本的な作法として成り立っている能を学ぶことで、日本古来の礼法を自然と身に付けることができ、謡曲に触れることによって、美しい日本語や古来の音律を体感できる。大人はもとより、子どもたちに能楽に触れさせることにより子どもたちのより高い心身の成長を促すことを目的とする。

集客数 226人 席数 270席 集客率 83.7% 会場 小劇場

開催日時 平成21年4月18日(土) 14時開演

チケット 全席指定 一般3,500円 18才以下1,500円

出演者 中所宜夫、観世喜正、津村禮次郎、駒瀬直也、他

市民参加 花見子役として公募により選ばれた地元小学生、フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 可見市出身の能楽師、中所宜夫による能『鞍馬天狗 白頭』の公演。花見子役として、市内小学生の参加者を募集し、5回程度の稽古をしたうえで出演していただいた。また、公演に先立ち、能のワークショップを開催し、より能楽公演を楽しめるような工夫をした。(助成：財団法人地域創造)

4月5日(日)子方稽古3回目、講座「3回目－能の演出としての能面と能装束、映画『面打』上映」、4月13日(月)子方稽古4回目、4月17日(金)子方稽古5回目、4月18日(土)本番

経費状況 収入 2,442,579円 支出 3,567,435円 収益率 68.5%

アンケート結果

- ・能楽公演は一般的に難しく受け取られますが、本公演では初めに内容を十分に説明いただき、非常に分かり易く感じました。また、若い子役も大勢参加させ、規律正しく作法を教えていることに感動いたしました。
- ・素晴らしい。日本のものをこれからも分かりやすく紹介し根付かせてください。

課題と今後の対応

一般的に能公演には難しいという先入観があるため、より鑑賞における心理的障壁を少なくする工夫として、能楽公演に先駆けての関連企画の実施や、子どもの頃から能に親しめる環境づくりのために子役が活躍する演目の選出ならびに地元小学生の出演を募るなど多方面より能楽を楽しめるよう工夫をした。

alaでは能舞台飾りを劇場備品として保有していることは強みであり、かつそれを活用し、地域へ還元していくことは重要であるため、伝統芸能を後世に伝えていく意味においても学校教育現場と協力を図っての能楽公演実施が今後望まれる。



目的 0歳から楽しめるクラシックコンサート。親子と一緒にコンサートを楽しみ、家庭に帰ってからも、このコンサートの体験をもとに、豊かな親子コミュニケーションを発展させていくきっかけとする。

集客数 1,007人 席数 1,007席 集客率 100.0% 会場 主劇場

開催日時 平成21年5月10日(日) 13時30分開演

チケット 全席指定 一般1,500円、中学生以下500円

出演者 ブーラシアンプラス(金管五重奏)、弦うさぎ(弦楽四重奏)

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 動物たちが活躍する本格的なクラシックコンサート。平成13年に誕生して以来、児童劇ともキャラクターショーとも違う独自の世界が話題を呼び、日本全国で人気となったパフォーマンスをお楽しみいただいた。

経費状況 収入 1,012,950円 支出 1,845,620円 収益率 54.9%

アンケート結果

- ・とてもすばらしい演奏で、子供向けのパフォーマンスもあり、楽しく名曲を聴けたひととき。何もかも忘れ夢の世界に入れました。また、ぜひ聴きたいです。また、アーラで開いてください。
- ・ライオンがトランペットをふいているところがおもしろかったです。
- ・くまさんがいすからおちた。らいおんさんとなかよくね。

課題と今後の対応

当公演に関する電話での問い合わせが多く、また子ども会や学校関係の団体購入が多かったこともあり4月中にチケットが完売となった。当日は親子での来場者が多く、子どもを膝の上に乘せ親子が共に身体で楽しむ姿が目立った。0歳から入場できる公演としたこともあり客席内が通常の公演よりも騒がしく、時折泣く子どもの姿もあったが、特にクレームはなかった。子どもが楽しむだけでなく、大人も同じように楽しんでおり、未就学児を対象とした本格的なクラシックコンサートとしては完成された内容だった。また、当日が母の日ということもあり、alaからのサプライズプレゼントとして終演後に中学生以下の子どもたちにカーネーションを無料配布した。家庭に帰った後も、これをきっかけに豊かな親子のコミュニケーションを発展させていくことが期待できるコンサートとなった。今後も、小さな子どもを持つ家族が気軽に足を運べる公演が期待されていることを感じた。



目的 いつまでも心に残る歌声や、時代を越えて支持される名曲の数々。団塊の世代を中心に、真の実力を備えた往年のフォーク・ポップス界をリードしたミュージシャンにより、心から納得できる音楽を提供する。

集客数 894人 席数 984席 集客率 90.9% 会場 主劇場

開催日時 平成21年6月5日(金) 18時30分開演

チケット 全席指定 5,500円

出演者 財津和夫 他

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 バンド「チューリップ」のリーダーとして70年代を席卷した財津和夫による「心の旅」、「Wake Up」等の懐かしの名曲や軽快なトークでおくるソロライブ。

経費状況 収入 4,394,550円 支出 6,114,804円 収益率 71.9%

アンケート結果

- ・感動した。懐かしい歌を楽しませて頂いた。
- ・サボテンの花(パースデーサプライズ)を頂きました。ありがとうございました。
- ・とても楽しい1日となりました。

課題と今後の対応

完売とはいかなかったものの、多くのお客様にご来場いただいた。特に大きな混乱もなくアンケートの反響も概ね良好であった。契約を結んでいる制作会社は仲介業者であり、決定権がない事柄が多く、現場で困る部分も多々あった。今後同様の形態で行われるイベントに関しては、契約前段階でのチェックを入念に行う必要があると感じた。



俳優座劇場プロデュース『東京原子核クラブ』

目的 日本演劇界において高い実績を持つ俳優座劇場の作品を上演することで演劇ファンの拡大に寄与するものとする。また、可見市民に質の高い舞台芸術の鑑賞の機会を提供することにより、市民の芸術活動を刺激し、alaの利用者の発掘、鑑賞者の育成、芸術活動へのきっかけとなることを目的とする。

集客数 192人 **席数** 484席 **集客率** 39.7% **会場** 小劇場

開催日時 平成21年7月17日(金)18時30分開演、18日(土)13時30分開演

チケット 全席指定 3,000円

出演者 田中壮太郎、石井揮之、若杉宏二、小飯塚貴世江、西山水木、二瓶鮫一 他

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 戦前の下宿屋を舞台とした青春群像劇であり、一癖も二癖もある下宿の住人たちや、情に厚い大家、男勝りなその娘が織りなすコメディである。また、舞台が後半に差し掛かると、戦争により暗い影がさすようになり、シリアスな場面が中心となる。主人公はノーベル賞物理学者、朝永振一郎氏がモデルである。

経費状況 **収入** 360,070円 **支出** 4,342,193円 **収益率** 8.3%

アンケート結果 ・ありがとうございました。とっても感激したお芝居でした。セットが変わった時も驚いたし、衣裳の早変わりも驚きました。
・とてもすばらしかった。内容も重みがあったし、暗い後半もすばらしい演技だった。
・マキノ作品ははじめてですが、また観たい!

課題と今後の対応

本作品は読売文学賞を受賞する等、大変優れた作品であるにもかかわらずその魅力を市民に伝えることが困難であった。本作品のように可見市においては認知度の低い劇団やキャスト、スタッフ等の公演でどのように集客するか。その一つの方法として関連企画(本作品に関連性のある映画の上映や出演俳優によるワークショップやアウトリーチ等)で演劇に関心の無い方々を取り込まなければならぬのだが、そのアイデアがないままに公演を迎えてしまった。今後はチケットを売り出す前に周到な販売戦略が必要であり、関連企画を見越した事業予算を確保しなければならない。



目的 日本を代表するオーケストラの一つで、当財団と地域拠点契約を結んでいる新日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートを開催することにより、市民が本格的クラシックに触れる機会を提供し、文化芸術の高揚を図る。

集客数 838人 席数 1,019席 集客率 82.2% 会場 主劇場

開催日時 平成21年7月20日(月・祝) 16時開演

チケット 全席指定 一般7,000円、18才以下3,500円

出演者 指揮：クリスティアン・アルミンク、フルート：白尾彰、
管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 ビゼー作曲「カルメン」、ラヴェル作曲「ボレロ」など名曲を本格的な編成で演奏。また、指揮者は、前年のサマー・コンサートでも好評を博した音楽監督であるクリスティアン・アルミンク。
コンサート関連企画として、楽団員によるトーク・食事等を楽しんでいただくパーティを開催し、優雅で特別な一日を演出した。

経費状況 収入 6,554,300円 支出 8,236,607円 収益率 79.6%

アンケート
結果

- ・素晴らしい。新日本フィルが可児に来るなんて！！これもすごい！ハーフプライスの案も素晴らしい。私も音楽をやっていましたが、コンパクトにまとまっている素晴らしいホールですね。
- ・スタッフの対応も相まって、素晴らしい時間を過ごせました。感謝です。
- ・大変よかったです。次回も楽しみにしています。期待しています。
- ・大変よかったです。誕生日プレゼントのカード、花等を頂き細やかな心に感激しました。ありがとうございました。

課題と
今後の対応

人気の曲目と確かな演奏、音楽監督の登場により、一定の集客は達成できた。演奏力の確かさとクラシック音楽の魅力はある程度市民に認知されたが、次年度以降も集客を確保していくには、人気の高いプログラムと著名なソリスト・指揮者の登場が必要と思われる。パーティーについては、交流を目的に立食形式にて実施したが、着席式のコースディナーの要望が多く、次回開催の際は考慮したい。目標の来場者数は達成できたものの、収入は予算を下回ったことから、予算の積算を見直す必要を感じた。



目的 かつて地歌舞伎が盛んであった可見市において、大歌舞伎を上演することにより、市民文化の高揚を促すとともに、歌舞伎同好会の活動を活発にし、市民の歌舞伎保存への意識を高める。

集客数 616人 席数 1,005席 集客率 61.3% 会場 主劇場

開催日時 平成21年7月24日(金) 18時30分開演

チケット 全席指定 6,000円

出演者 片岡仁左衛門、片岡秀太郎、片岡孝太郎、片岡愛之助、坂東薪車 他

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

【その他出演者】

市川高麗蔵、坂東竹三郎、市村家橘

事業内容

【演目】

- 一、正札附根元草摺 長唄囃子連中
- 二、義経千本桜(下市村茶店の場、同 釣瓶鮎屋の場)

経費状況 収入 2,846,720円 支出 8,104,759円 収益率 35.1%

アンケート
結果

- ・ 昨年の歌舞伎も大変楽しく観ました。年1回はalaで演じていただけると嬉しいです。ヤマ場では涙が出て止まりませんでした。仁左衛門さんの立ち姿の美しさに見とれてしまいました。
- ・ 地方にいるとなかなか生で見る機会がないのでとても良かったです。
- ・ 初めての歌舞伎ですがわかりやすく、義経千本桜の「鮎屋」は格別。家族、親子、母の情と昔も今も〜と改めて歌舞伎の世界を知る一歩となりました。立ち廻り、見得、そして眼力、女性より女性らしい女形と引き込まれた時間、感謝です。ありがとうございました。
- ・ 「仁左」の熱演に泣かせていただきました。

課題と
今後の対応

人気俳優片岡仁左衛門が出演することもありチケットの売れ行きに期待したが、目標枚数は達成したものの期待した枚数には及ばなかった。アンケートに年に1度は歌舞伎公演を、という声が多かったが毎年招聘するには予算がかかるため、多くのリピーターと新規顧客の開拓が必要である。公演自体は歌舞伎ということもあり、見た目にも華やかでお客様は満足したようだった。また、初めて歌舞伎を観た方も多く、可見公演という市民にとってより身近なところで上演することで、伝統芸能に足を運ぶきっかけとなったようである。



目的 文化芸術の面にとどまらず、広い意味において公益的施設である ala を目指し福祉との連携事業として開催する。
障がい者を個性にとらえ、その個性が創作する芸術を「可能性の芸術」とし、芸術と社会の関わりを「自己表現・協働・癒し」を柱に考えていく展覧会とする。

集客数 772人 **席数** - **集客率** - **会場** 美術ロフト

開催日 平成21年7月20日（月・祝）～26日（日） 10時～19時（全6日間）

チケット 無料

事業内容 障がいのある人たちが「生」への証として生み出した作品を「可能性の芸術」としてとらえた作品展。芸術と社会との関わりを「自己表現・協働・癒し」の面から考えていく。
障がいのある人たちの芸術活動をサポートする団体であるエイブル・アート・ジャパン（東京）ならびに財団法人たんぼの家（奈良市）の協力のもと開催した。

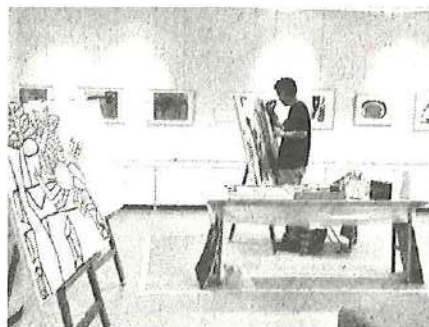
経費状況 **収入** 4,915円 **支出** 946,960円 **収益率** 0.5%

アンケート結果 ・観ていて癒されました。何だか元気がでます。
・自分たちもこういう風な活動を目指していきたい。

課題と今後の対応

余暇の延長に留まらず、本格的に「仕事」として障がいのある人の表現活動支援に取り組んでいる財団法人たんぼの家、ならびにエイブル・アート・ジャパンに協力を仰いだ本企画は、1週間という開催期間中に700名を超える来場者を記録し、結果多くの市民に障がいのある人の可能性に注目した表現活動を紹介できたのではないかと。展覧会と併せて設置した物販コーナーでは、関連グッズの他、障がいのある人による表現活動に特化した書籍が高い売行きをみせ、本活動に対する市民の関心の高さが窺えた。

今後の課題として、絵画にとどまらない表現活動の紹介を視野にいたれた継続的開催、そして近隣地域での活動紹介も実施できれば、より広い展開が望まれるのではないかと。また今回、市の共催、ならびに市教育委員会と市社会福祉協議会の後援のもと本事業を開催することで、広報面や人員配置面において大きな協力が得られたので、今後もこの連携の上での事業展開が望まれる。



- 目的 普段alaで活動している市民の参加を得ながら、来場者が一日中楽しめるイベントを開催する。
このイベントを通して、市民にとってalaがより身近なものとなり、今後の利用、活動へと広がることにつなげていく。

集客数 3,800人 席数 - 集客率 - 会場 全館

開催日 平成21年7月26日(日)

チケット 無料

出演者 コンサート出演者等

市民参加 屋台、野外ステージ出演等

普段、alaで活動している市民の参加、協力を得て実施。

- 事業内容
- 【主劇場】 シアター・マラシーナ「パラシュート」公演
 - 【小劇場】 多文化共生プロジェクト「危機一髪」公演
 - 【音楽ロフト】 alaクルーズ アートひろば「音と石であそぼうよ」
 - 【演劇ロフト】 さんしろ絵本ライブ、ザッハトルテミニライブ
 - 【美術ロフト】 エイブル・アート展
 - 【映像シアター】 飛騨国際メルヘンアニメ映像祭上映会
 - 【館内ロビー】 漫画家赤座ひではる「似顔絵コーナー」、じっさいクラウンパフォーマンス
 - 【ギャラリー】 歌舞伎同好会「歌舞伎の化粧をしよう!」
 - 【野外コンサート】 シンパティコ・バンド、アロハ ケイ、マノア・レインボー、松岡伶子バレエ団、LEEO、プログレス、テランガアフリカ

経費状況 収入 32,800円 支出 1,550,622円 収益率 2.1%

課題と
今後の対応

梅雨明けの遅れの影響で当日は昼過ぎから雨が降ったが、大きな事故や怪我等も無く無事に開催できたのが何よりだった。しかしここ数年の本事業の全体の様子を見ると、今一度検討が必要な点が多いように感じる。開催の是非、時期、規模の見直し等々、職員の声を取り入れながら、改めて検証しなくてはならない。



- 目的 「楽しむ」を統一のテーマとし、市民へ向けて日本の伝統の笑いを提供する。
現在の地方におけるホール落語会では、ただ看板（名前）だけで集客し、出演者も単純に順番をこなし終わるという形が多くみられるなか、「かに寄席」では寄席の世界を熟知した花井伸夫を席亭として迎え、こだわりの顔付け（プログラム）を提案する。出演者に緊張感をもたせ、なりより可見ならではの独自性を打ち出す。

集客数 977人 席数 993席 集客率 98.4% 会場 主劇場

開催日時 平成21年8月29日（土）14時開演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 柳家小三治、桂春團治、柳家禽太夫、桂福丸、[席亭]花井伸夫

市民参加 フロントスタッフ（alaクルーズ）

- 事業内容 前説：花井伸夫（席亭）
落語：柳家小三治・・・昭和34年 柳家小さん入門、前座名「小たけ」。昭和38年 ニツ目昇進「さん治」に改名。昭和44年 真打昇進 十代目「柳家小三治」を襲名。平成17年 紫綬褒章受賞
上方落語：桂春團治・・・昭和22年 実の父でもある二代目桂春團治入門「小春」。昭和34年 三代目桂春團治を襲名。平成16年 旭日小綬章受賞。現在、上方落語協会相談役、関西演劇協会相談役として活躍
落語：柳家禽太夫、上方落語：桂福丸

経費状況 収入 2,386,700円 支出 2,042,426 収益率 116.9%

- アンケート結果
・東西の落語を同時に楽しめるといのは贅沢な企画です。定例会として欲しいものです。
小三治師匠にはもっともっと来ていただきたいと切望します。
・とっても楽しくて涙が出てしまうくらいでした。次回も楽しみにしています。

- 課題と今後の対応
前年度から始めた「かに寄席パッケージチケット」が浸透しているようで、前年パッケージで購入された方が今年も購入したとの声を多く頂戴した。また東西落語界の二大競演ということもあり話題性が高く、当初は予定していなかった3階席まで開放することとした。主劇場の音響の問題などもあり3階席の開放については大変悩んだが、仕込段階で念入りに3階席の音響チェックを行うことで、概ねのお客様にはご満足いただける環境をつくることのできた。ただ、やはり音が聞こえづらいとの意見もあった。パッケージチケットが浸透してきた分、購入に際し大変時間を要したことへの不満の声も多く寄せられた。

寄席は固定客が増えてきているので、次年度以降も安定した集客が望めるが、顔付けやチケット販売の面でも引き続きお客様の満足度を高める努力をしていきたい。



目的 映画館のない可児市において、映画鑑賞の機会を提供するため映画祭を開催し、優秀映画を鑑賞する機会を提供するとともに、文化芸術の高揚を図る。市民による映画祭実行委員会が企画から運営までできるよう支援し、市民の文化芸術活動の促進を図る。

集客数 5,512人 **席数** 8,752席 **集客率** 63.0% **会場** 主劇場、小劇場

開催日 平成21年5月17日(日)、9月5日(土)～10月12日(月・祝)

チケット 全席指定 一般800円(当日1,000円)、18才以下400円(当日500円)

出演者 映画監督、役者等のゲスト

市民参加 アーラ映画祭実行委員

地域未紹介作品や地元で縁のある作品を多く選定し、市民に良質な映画を観る機会を多く提供した。

その他、交流パーティーや上映終了後のアフタードリンク企画により映画ファンの交流を図り、また社会福祉協議会などとの協力をすすめ、地域に根付いた映画祭づくりをすすめた。

【上映内容】

事業内容

5月17日(日)10:00、13:30、16:00 / 崖の上のポニョ 小劇場(プレ上映会)
 9月5日(土)10:00 / ぐるりのこと。 小劇場
 9月5日(土)13:30 / トウキョウソナタ 小劇場
 9月6日(日)10:00 / ディア・ドクター 主劇場
 9月6日(日)13:30 / おくりびと 主劇場
 10月2日(金)13:30 / 誰も守ってくれない 小劇場
 10月2日(金)19:00、10月3日(土)10:00 / 重力ビエロ 小劇場
 10月3日(土)13:30 / パコと魔法の絵本 小劇場(主催/日本ラインフィルムコミッション)
 10月4日(日)11:00、14:00 / 旭山動物園物語ペンギンが空を飛ぶ
 主劇場(主催/可児市社会福祉協議会)
 10月10日(土)10:00 / ハゲタカ 小劇場
 10月10日(土)13:30 / 大阪ハムレット・光石富士朗監督トークショー 小劇場
 10月10日(土)19:00、10月11日(日)10:00 / 60歳のラブレター 小劇場
 10月11日(日)13:30 / 雨あがる・小泉堯史監督トークショー 小劇場
 10月12日(月・祝)9:30 / 木村大作監督トークショー+特別上映会「劔岳」 主劇場
 10月12日(月・祝)13:30 / 東南角部屋二階の女 池田千尋監督、香川京子トークショー 主劇場

経費状況 **収入** 4,066,710円 **支出** 5,254,913円 **収益率** 77.4%

アンケート結果

- ・木村監督のトークが楽しくて面白かった。映像の素晴らしさがトークによって実感できた。
- ・独身の頃は名駅や今池によく映画を観に行っていたけれど、結婚・出産してからなかなか映画を観に行くことが出来なかった。近くで観ることができて良かったです。
- ・以前から観たいと思っていた映画だったのでとてもよかった。小泉監督から黒澤明監督のお話も伺えてよかったです。

課題と今後の対応

実行委員のメンバーは、少しずつ経験を積んでいろいろアイデアも生まれるようになってきた。参加者には、やり遂げる達成感を味わっていただくよう、財団は側面的な支援を進めたい。前年よりも入場者が大幅に増加した理由は、やはり作品とゲストの力が大きいと考えられるため、次年度の作品選定・ゲスト交渉もしっかりと実行委員会で話し合っ

て決定していきたい。



- 目的
- ジャズを通して生の音楽の魅力を伝え、市民への普及を図る。
 可児市在住のジャズドラマー・森山威男と当センターによる共同企画により、公演までの全てを財団スタッフにより実施するもの。
 当センターならではの独自の企画を行うことで、その特色を地域から全国へ発信する。
 また、開館以来の恒例イベントとして全国的にセンターのブランディングを担う事業とする。

集客数 895人 席数 901席 集客率 99.3% 会場 主劇場

開催日時 平成21年9月19日(土) 18時30分開演

チケット 全席指定 一般5,000円、18才以下2,500円

出演者 森山威男、山下洋輔、高瀬龍一、岡崎好朗、中路英明、渡辺ファイアー、音川英二、川嶋哲郎、田中邦和、佐藤芳明、田中信正、望月英明

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

- 事業内容
- 市内在住のドラマー・森山威男自身のグループを中心とし、アーティストと財団の企画による恒例のジャズコンサート。毎回豪華なゲストと財団スタッフによる質の高い公演内容により、当センターでしか味わえない特別なコンサートとなっている。
 また、今年は山下洋輔トリオ結成40周年の節目の年で山下トリオ結成時のメンバーである両者のステージもお楽しみいただいた。

経費状況 収入 3,701,650円 支出 5,937,018円 収益率 62.3%

- アンケート結果
- ・大変パワフルな公演で元気をいただきました。
 - ・ものすごく感動しました。心のこもった演奏でした。ジャズはわからないと思っていましたが何度でも聴きたいです。
 - ・こういった攻めのジャズは初めて聞きました。すごく引き込まれました、感動をありがとうございました。

課題と今後の対応

ここ数年の継続的な内容が定着したことにより、音楽的にもより完成度の高いものとなった。また、森山威男活動40周年、山下洋輔トリオ結成40周年の節目の年となり森山、山下両氏のメディアへの露出も多くなったことで、当日の期待も高まり集客へつながったと思われる。また、複数枚割引購入への誘導等も新規来場者の獲得につながったと思われる。当日割引での購入者も年々増えており、100人を超えた。今後もリピーターを確保していけるような、当センターならではの質の高い自主制作公演としたい。



目的 当財団がプロデュースした作品を全国に発信することで、当センターを全国ブランドにすると共に、公演費を回収することを目的とする。

集客数 1,407人 席数 2,880席 集客率 48.9%

会場

豊橋市民文化会館、
可児市文化創造セ
ンター、アステール
プラザ、八尾市
プリズムホール、
ピッコロシアター

開催日 平成21年9月19日(土)豊橋公演、25日(金)広島公演、27日(日)八尾公演、
29日(火)兵庫公演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 山口馬木也、山田ひとみ、金守珍 他

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

芥川賞作家柳美里氏の初期の戯曲で、平成3年に初演されたものの再演。在日韓国人家庭を題材にした「家族の愛」を描く作品として高い評価を得ている。

前年度当財団で制作し、当センターと新国立劇場で公演した。今年度は全国各地で公演を行った。

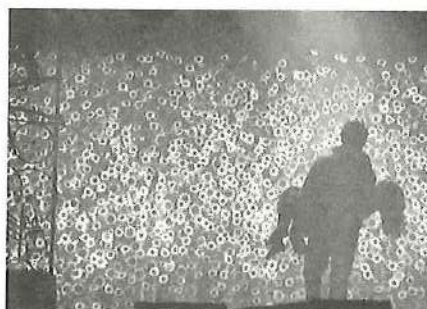
事業内容 豊橋公演：9月19日 会場 豊橋市民文化会館
主催：財団法人豊橋文化振興財団、文化庁
可児公演：9月21日・22日 会場 可児市文化創造センター
主催：財団法人可児市文化芸術振興財団
広島公演：9月25日 会場 アステールプラザ
主催：財団法人広島市文化財団、文化庁、中国新聞社
八尾公演：9月27日 会場 八尾市プリズムホール
主催：八尾市、財団法人八尾市文化振興事業団、文化庁
兵庫公演：9月29日 会場 ピッコロシアター
主催：財団法人兵庫県立尼崎青少年創造劇場、文化庁

経費状況 収入 17,919,131円 支出 17,841,777円 収益率 100.4%

アンケート結果 ・よかったです。何だか様々なことを考えさせられて。切なくて、うれしくて、悲しくて、でも良い。
・昨年引き続き、また観に来ました！2回目なのにとってもつき動かされる部分もあって、心臓がバクバクしてしまいました。

課題と今後の対応

可児発の作品として全国4ヶ所のツアー公演を実施。演劇ワークショップやアフタートーク、関連映画上映会など公演以外に各地域の希望に沿った様々な事業を同時に進行し、集客活動に努めたが、結果は厳しい公演もあった。観客の反応はどの地域でも大変良く、大好評であった。収益面においては、初めてのツアー公演で先の見えない部分があり、助成金収入と支出の見込みが甘かったことで当初予算での収支予想を大きく下回ってしまった。今後の課題として予算の積み上げと現場での執行管理を見直す必要がある。



目的 平成 19 年度の中島みゆきコンサート、平成 20 年度の BEGIN コンサートに続き、集客力のあるアーティストのコンサートを開催し、普段 ala に来館したことのない客層も狙う。

集客数 971 人 席数 991 席 集客率 98.0% 会場 主劇場

開催日時 平成 21 年 10 月 23 日（金） 19 時開演

チケット 全席指定 5,500 円

出演者 岩崎宏美 他

市民参加 フロントスタッフ（ala クルーズ）

事業内容 「ロマンス」や約 130 万枚の大ヒットを記録した「聖母たちのララバイ」で知られる歌姫岩崎宏美の公演。3 年ぶりのニューアルバム「Thanks」で話題を集める中、ミュージカルなどでも多彩な才能を発揮する岩崎宏美の好演を存分にお楽しみいただいた。

経費状況 収入 4,867,225 円 支出 7,075,359 円 収益率 68.8%

アンケート
結果

- ・素晴らしい一時でした。一曲一曲が心に響き、岩崎さんの一言一言が言霊となって体に入ってきました。「すみれ草」「人生のおくりもの」はほんとうに素晴らしかったです。是非また可児でのコンサートを今から心待ちにしています。
- ・宏美さんの歌はとても素敵で最高でした。これからもいろんなアーティストを呼んで、コンサートを開いてください。楽しみにしています。ありがとうございました。
- ・バースデーカードとバラの花をいただき感激しました。しかも、館長さん自らの挨拶で、またまた感激しました。思い出に残るコンサートになりました。

課題と
今後の対応

可児の主要な客層に合っており、ほぼ完売となった。お客様の満足度も高かった。CD・グッズ購入者を対象とした握手会では 100 人以上のお客様が並び非常に喜ばれた。しかし今回、パッケージチケットのアラカルト対象だったため、他のポップスコンサート同様、一般発売前に良い席を確保する目的で安いパッケージチケットを購入するお客様もいたため、次年度以降、ポップスコンサートをアラカルト対象とするか検討が必要である。また、チケット発売日は 100 人近いお客様が並び、チケット発券の対応では非常に時間がかかりお客様から不満の声が上がった。今後、同様のポップスコンサートを実施する場合は対策が必要である。また、開演時間が 10 分程遅れたが、出演者の都合で開演時間が遅れることは多々あることだと思うので、予めお客様に対しご了承くださいようアナウンスし、ご理解いただく必要があったと思われる。



目的 市民に質の高い舞台芸術の鑑賞の機会を提供することによりその芸術活動を刺激し、当センターの利用者発掘のきっかけとなることを目的とする。時事問題をテーマを取り上げた作品を鑑賞いただくことにより、市民に演劇をより身近なものとして感じていただく。

集客数 395人 **席数** 472席 **集客率** 83.7% **会場** 小劇場

開催日時 平成21年10月30日(金)19時開演、31日(土)14時開演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 大滝寛、荘司肇、三木敏彦、立花一男、井上倫宏、岡田吉弘、高橋克明、松橋登 他

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 不屈の名作である本作品を文学座の西川信廣演出のもと、名役者たちが劇団を越えて息をのむ法廷劇を展開する。
蒸し暑い夏の日の午後。無作為に選ばれた十二人の陪審員は、少年の父親殺しという容疑に、有罪(=死刑)の評決を下そうとしていた。ゆるぎようもないと思われた“罪”に対し、一人の男が疑問を投げかける。
「もし、我々が間違っていたらどうしますか？」陪審室の空気は一変し、男達の議論は白熱していく…。
平成21年から始まった裁判員制度に関連し、注目される作品である。

経費状況 **収入** 856,620円 **支出** 4,132,100円 **収益率** 20.7%

アンケート結果

- ・それぞれの個性(十二人)がとてもおもしろく興味深かった。とても入り込んで観ることができた。
- ・それぞれの主張の根拠はやはり細かく討論していくべきだと強く感じた。これからの裁判員制度でも。
- ・力演でした。裁判員制度にもインパクトがあると思いました。

課題と今後の対応 裁判劇の最高峰と名高い本作品を上演するにあたり、演出の西川信廣が演劇ワークショップ講師に決定していたため、ワークショップ教材に本作品台本を使用した。結果、ワークショップ参加者より「いつもより深く作品を鑑賞することができた」と感想をもらい、ワークショップを通じて作品の魅力が伝えられ、集客にも繋がったと考えられる。

また、関連企画としてアーラ・シネマ・コレクションで本作品をモチーフとした映画2本を上映し、演劇・映画いずれも相乗効果を持たせるために、映画チケット半額やコーヒータケットプレゼントの特典を準備した。

裁判員制度が開始されたタイミングでの上演であり、社内行事の一環として来場された方もあったので、広報宣伝戦略として、企業への働きかけをより積極的に行うべきだったと反省が残る。



事務事業

公共ホール現代ダンス活性化事業
コンテンポラリーダンスウィーク新井英夫
「now and theN」、「かなでるカラダから」

目的 演劇や音楽と同様に、市内各所へのアウトリーチ活動の媒体としての機能を期すと同時に、公演やワークショップ等を通じてコンテンポラリーダンスの認知度の向上、及び関連事業での参加市民の開拓、観客の獲得を図る。
財団法人地域創造の自主事業である本事業の実施により、同財団との連携をより高める。

集客数 156人 席数 174席 集客率 89.7% 会場 小劇場

開催日 平成21年11月15日(日) 15時開演

チケット 全席指定 一般1,000円、18才以下500円

出演者 新井英夫、さとういく、戸川悠野 他

市民参加 ワークショップ参加者、フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 コンテンポラリーダンスに触れる機会が少ない地域にコンテンポラリーダンスを紹介する、財団法人地域創造による自主事業。事業登録アーティストが、約一週間程度その地域に滞在し、地域の公共ホールとアイデアを出し合い、コンテンポラリーダンスの公演やワークショップを行う。

経費状況 収入 39,000円 支出 90,490円 収益率 43.1%

アンケート結果
・ 幻想的でとても楽しくみれました。
・ 新しいダンスにびっくりしました。ワークショップに孫が参加出来て幸せでした。
・ 新井さんの関節のやわらかさに驚きです。

課題と今後の対応

公演についてはチラシ、ケーブルテレビ等で広報したが集客に繋がらなかった。しかしながらアウトリーチワークショップ及び一般参加のワークショップでは、実施した各所で参加者の満足度が非常に高かったものと思われる。このジャンル、特に今回選定したアーティストは、アウトリーチ、ワークショップ等で参加者を十分に楽しませてくれたため、今後も実施したい。



目的 厳しい財政状況のなか、質の高い芸術に触れる機会を提供し続けるためには、志を同じくする公共ホールと協力し、「共同制作」を実現することがより大切だと考える。ノウハウ、情報、人材などを共有しともに発展に力を注ぐことが地域の芸術文化環境づくりに寄与するものとする。

集客数 229人 **席数** 484席 **集客率** 47.3% **会場** 小劇場

開催日時 平成21年11月20日(金)19時開演、21日(土)14時開演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 剣幸、兵庫県立ピッコロ劇団俳優

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 岸田國士戯曲賞や日本アカデミー優秀脚本賞の受賞歴をもつ鄭義信がピッコロ劇団に書き下ろした作品を関西演劇界をリードする内藤裕敬が演出する。鄭義信と内藤裕敬は本公演が初めての顔合わせとなり、二人による質の高い演劇作品を市民に提供する。またピッコロ劇団は公共劇場のパイオニアとして地域に貢献した様々なアウトリーチ活動の実績があり、本事業ではそれらのノウハウを学び、地元学校や介護施設などとの協働を図っていくものである。
【アウトリーチ】
10月26日(月) 春里小学校3年生、10月27日(火) 旭小学校6年生、10月28日(水) 土田小学校6年生、10月29日(木) 春里小学校3年生、1月25日(月) 岐阜県農業大学校

経費状況 **収入** 3,177,170円 **支出** 4,760,904円 **収益率** 66.7%

アンケート結果

- ・最初ドタバタでどうなるのかしらと思ったけれどちょっぴり切なくなったりととても良い芝居でした。
- ・笑いの中に人間模様が描かれ大変楽しい時間を過ごしました。
- ・明るいと思っていたらいろいろ問題を抱えた人々の姿、深いお話。皆さん熱演でした。

課題と今後の対応

この事業は本公演以外にアウトリーチの実施を含めた地域創造からの助成事業であった。全国の公共ホールが作品制作以外にも広報宣伝などを通してコミュニケーションを取るきっかけともなる事業のため、作品の作り方だけでなく他ホールの制作に対する考え方など多くを学ぶ事が出来た。しかし、連携した劇場が東京、兵庫、可児と遠く、お互いの会員情報が利用できなかったため、それぞれで新規の顧客を開拓する必要があった。アウトリーチは劇団員が市内の小学校を訪れ、ゲームを使ってお互いのコミュニケーションを図るものだった。劇団員が小学生に対するアウトリーチに慣れており、90分の中で担当教諭も驚くほど、子供たちの普段とは異なる一面や楽しそうな笑顔を引き出していた。本公演だけでなく、劇場から外に出て触れ合うことも今後のalaの活動のひとつとして考えていきたいと思う。



事務事業

新日本フィルハーモニー交響楽団
『オーケストラと夢のせかい』

目的

日本を代表するオーケストラの一つで、当財団と地域拠点契約を結んでいる新日本フィルハーモニー交響楽団による親子で楽しめるコンサートを開催することにより、子どもたちや今までクラシックに馴染みのなかった人たちに本物の芸術に触れる機会を提供し、文化芸術の高揚を図る。

集客数 1,006人 席数 1,019席 集客率 98.7% 会場 主劇場

開催日時 平成21年11月22日(日) 16時開演

チケット 全席指定 一般4,000円、18才以下2,000円

出演者 指揮：円光寺雅彦、独唱・ナレーション：赤星啓子、管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容

「となりのトトロ」のほか誰もが知っている曲を中心にした演奏にクラシック音楽についての楽しいトークを織り交ぜ、本格的でありながら親子で楽しんでもいただけるコンサートであった。

経費状況 収入 5,345,050 支出 6,955,181 収益率 76.8%

アンケート結果

- ・クラシックについての解説等が配布され、理解するのに役立ちます。観賞回数は少ないのですが、これからも観賞していき、理解を深めたい。
- ・ホールのがさがとても良いです。もちろん新日本フィルはステキでした。すごく楽しかった！
- ・「トトロ」「祖国」の選曲もよく、大変楽しく心もゆったりとして、今年も良い年末を迎えられます。「フーテンの寅さん」のテーマ、思わず口ずさみたくなった。マネジメントがよかった。合唱も良かったです。久しぶりに発声しました。

課題と今後の対応

東濃信用金庫に協賛金をいただいて実施したが、寄付者が寄付金を損金扱いできない点が当財団の課題と感じた。現在、公益財団法人への認定準備を進めており、認定が下りた際には、様々な企業への営業を進めて、民間企業の社会貢献活動を根付かせたい。



目的 文学座との地域拠点契約の2年目として、市民に演劇、ドラマリーディング、ワークショップなど多種多様な角度から文学座の魅力に触れてもらい新しい演劇ファンを獲得すると共に、文学座の演劇ノウハウを活かして、地域の社会貢献活動を行なうことを目的とする。

集客数 512人 **席数** 512席 **集客率** 100.0% **会場** 小劇場

開催日時 平成21年11月27日（金）19時開演、28日（土）14時開演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 文学座俳優

市民参加 フロントスタッフ（alaクルーズ）

事業内容 原作：重松清、演出：西川信廣、出演：加藤武、吉野由志子、石井麗子、他
ベストセラー作家・重松清の連載小説『定年ゴジラ』を舞台化。
いまや老人の町と化したニュータウン。日本各地にあるいわゆるニュータウンで起こっている現実の問題。それは団塊の世代の問題にも重なっている。定年を迎えた初老たちが必死に働き追い求めていた「幸せ」とはなんだったのか？悲しくも可笑しい、オジサンたちの自分探しの物語。

『高校演劇ワークショップ』

定員：50人 対象：高校生 会場：美術ロフト

実施日：平成21年8月19日（水）13：00～17：00、20日（木）10：00～17：00

講師：椎原克知（俳優・文学座所属）

経費状況 **収入** 1,158,520円 **支出** 4,881,237円 **収益率** 23.7%

アンケート結果

- ・わかり易い内容で、市内でこうした公演が安価で鑑賞できることに感謝したい。
- ・脚本も俳優さんも舞台もとても感動しました。
- ・質の高いお芝居をこんなに間近でみるのができてよかった。定年後の男たちの戸惑いが良く描かれていて良かった。

課題と今後の対応

集客率が前年度約77%に対して今年度の文学座公演では100%で完売となった。その大きな理由として、本作品では人々の関心の高い団塊の世代の退職後を描いたドラマであることはもちろんだが、地域拠点契約2年目として地道に実施しているアウトリーチやワークショップなど市民のための演劇による社会貢献活動が市民に認められ、可児市における文学座の知名度が上がっているからだろう。質の高い公演とアウトリーチを実施し続けることが、テレビタレントなどに頼らない新たな演劇ファンの獲得に繋がると実感した。



目的 TV出演等で認知度の高いダンスグループ「コンドルズ」の公演を上演することによって、コンテンポラリーダンスというジャンルそのものの地域での認知度を高める。

集客数 691人 席数 839席 集客率 82.4% 会場 主劇場

開催日時 平成21年12月5日(土) 17時開演

チケット 全席指定 3,000円

出演者 コンドルズ

市民参加 フロントスタッフ (alaクルーズ)

事業内容 近年国内外での活躍が目覚ましい男性ダンスグループ、「コンドルズ」によるダンスパフォーマンス。

経費状況 収入 1,657,700円 支出 5,191,590円 収益率 31.9%

アンケート結果
 ・予想をはるかに超える面白さ。夢中になりました。
 ・元気をもらいました。
 ・真面目な父に喜んでもらえてよかったです。alaの他の催しも観てみたいです。

課題と
今後の対応

市内はもちろん、県外からもたくさんのお客様にご来場頂いた。内容的にも充実したエンターテイメントショーであり、お客様には非常に楽しい心地で帰路についていただけたと思う。

カンパニーには専属の制作担当がいないため(出演者の一人が兼務)、各方面への手配等がままならない点も多かった。次回同様のカンパニーの公演を実施する際は事前に周到な準備をしておくことが必要である。



ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 ニューイヤー・コンサート 2010

目的 市民に質の高い舞台芸術の鑑賞の機会を提供することにより、市民の芸術活動を刺激し、
可児市文化創造センター利用者の発掘、鑑賞者の育成、芸術活動へのきっかけとなることを
目的とする。

集客数 804人 **席数** 1,019席 **集客率** 78.9% **会場** 主劇場

開催日時 平成22年1月6日(水) 19時開演

チケット 全席指定 一般8,000円、18才以下4,000円

出演者 指揮・ヴァイオリン：オーラ・ルドナー、ソプラノ：ナターリア・ウシャコーワ、テノール：メルツァード・モンタゼーリ、管弦楽：ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団

市民参加 フロントスタッフ (ala クルーズ)

事業内容 ウィーン・フィルと並び世界最高のウィンナ・ワルツ、ポルカを聴かせるウィーン・フォルクスオーパー交響楽団。今年で18年目となる日本公演は、平成21年12月31日サントリーホールで始まり、平成22年1月12日まで主要都市を中心に廻った。伝統と格式を誇るこの楽団の演奏が、おしゃれで楽しいコンサートを盛り上げた。プログラムは、ヨハン・シュトラウスⅡ世、レハールのオペレッタの序曲やポルカ、「美しく青きドナウ」をはじめとしたワルツの名曲揃い。照明と舞台装花もサントリーホールと同じものを持ち込み華やかさを演出した。
また、コンサート前には、公演の見所や楽団についてのトーク、曲演奏を交えたビフォアパーティを開催し、優雅で特別な1日を演出した。

経費状況 **収入** 4,836,100円 **支出** 9,275,224円 **収益率** 52.1%

アンケート結果

- ・とても素晴らしかったですね。毎年ニューイヤーコンサートを楽しみにしています。
- ・スタッフならびに出演者の皆様が、観客に充分満足していただけるように演出していることがおおいに称賛できる。
- ・日本に居ながらにして本場のオーケストラを楽しむことができ、幸せでした。

課題と今後の対応

前回の公演が好評で、市民からのニーズが非常に高かった本公演であるが、集客が予想よりも伸びなかった。経済状況の変化やその他様々な方向から分析し、今後の公演に活かす必要を感じた。しかしながら、パーティーも含め来場者からの声としては、非常に好評であり、一流の演奏を充分堪能していただけたのではないかと感じる。今後は、アウトリーチやワークショップをはじめ、子どもたちや障がい者、日ごろクラシックに馴染みのない人にも、その素晴らしさを伝え、クラシック音楽の裾野を広げていきたい。



目的 夏の「納涼」に引き続き、寄席の世界を熟知した花井伸夫を席亭として迎え、こだわりの顔付けを提案する。
新年に相応しい「笑い」をテーマとした伝統芸能を堪能いただく。

集客数 997人 席数 997席 集客率 100.0% 会場 主劇場

開催日時 平成22年1月11日(月・祝) 14時開演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 三遊亭楽太郎、柳家さん喬、三増紋之助、三遊亭楽大、[席亭] 花井伸夫

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

前説：花井伸夫(席亭)

事業内容 落語：三遊亭楽太郎 …… 昭和56年真打昇進。平成22年 6代目三遊亭圓楽襲名。

落語：柳家さん喬、落語：三遊亭楽大、色物：三増紋之助(江戸曲独楽)

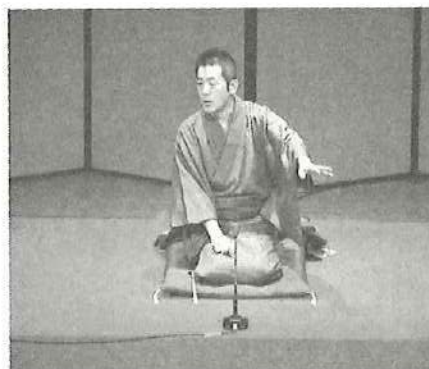
経費状況 収入 2,341,850円 支出 1,894,534円 収益率 123.6%

アンケート結果

- ・お値段がお安く、内容が、出演者が豪華です。
- ・初めて寄席に来ました。予想以上に面白かったです。
- ・本場末廣亭に準じた面白さです。
- ・今年もかに寄席を楽しみにしてきました。とても楽しいひとときで、“さあ今年もがんばって良い年を過ごせますように”と思いました。来年も楽しみにしています。
- ・やはり本物は良い。テレビで見るよりも時間をたっぷりかけて話されるので大変面白し、次回もまた来たいと思います。

課題と今後の対応

パッケージチケットの購入率(41%)、同2年連続購入率(15%)の割合から、パッケージの認知度の高さが窺える。また、6代目三遊亭圓楽襲名直前の三遊亭楽太郎、柳家さん喬というベテランの2人や江戸曲独楽の三増紋之助といった出演者の顔触れでお客様には大変満足いただけたようである。しかし、「納涼」同様に、完売した際に3階席を売り出すかどうかという難しい判断を迫られた。特に今回は色物(江戸曲独楽)の際に、1階客席に出演者が降りて演じたため、3階席からは非常に見えづらかったようであり、今後の課題となった。



目 的

当財団がプロデュースする演劇作品を可児公演だけでなく東京公演および翌年の全国公演を視野に入れ、可児市から全国に発信する質の高い作品を目指すと共に、東京公演において演劇界から高い評価を得ることで、市民の演劇に対する理解を得る。また、アーティストインレジデンスの特性を活かし市民を巻き込んだ作品作りを実施することで、地域全体で本公演を盛り上げると共に、地域における演劇の基盤づくりに寄与するものとする。

集客数 1,188人 席数 1,824席 集客率 65.1% 会場 小劇場

開催日 平成22年1月15日(金)～20日(水) 計6公演

チケット 全席指定 一般3,000円 18才以下1,500円

出演者 音無美紀子、麻丘めぐみ、若松泰弘(文学座)、村井麻友美

市民参加 市民サポーター、フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容

質の高い演劇作品を可児にアーティストレジデンス型で制作し、可児から全国発信をする ala Collection シリーズの第2弾。

地域拠点契約を締結している文学座の創設者のひとりである岸田國士の短編戯曲より3作品を、麻丘めぐみ、音無美紀子を可児に招き、読売演劇大賞など数々の演劇賞を受賞している文学座の西川信廣演出で制作した。

経費状況 収入 10,002,720円 支出 21,201,330円 収益率 47.2%

アンケート
結 果

- ・ 選び抜かれた台詞の数々は心に残りました。日常を切り取ることで難しいことだと思いますが、こんな風にやれるものなのですね。創造力と思索する力が試された気がします。
- ・ ala 発信の公演を楽しみにしています。名古屋でも舞台公演が少なくなっているのので、貴重だと思っています。3作品とも肩の凝らない身近に感じる作品で良かったと思います。
- ・ 大感動とかではなくて、とても贅沢な時間を過ごせた充実感みたいな気持ちです。可児の後も東京から全国へとまわられるとのことで、頑張ってください。

(次頁 ala Collection シリーズ Vol. 2『岸田國士小品選』(東京公演) 参照)

課 題 と
今後の対応

事務事業 **ala Collection シリーズ Vol.2『岸田國士小品選』(東京公演)**

目 的 (前頁 ala Collection シリーズ Vol. 2『岸田國士小品選』(制作公演) 参照)

集 客 数 1,354 人 席 数 1,692 席 集 客 率 80.0% 会 場 新国立劇場小劇場

開 催 日 平成 22 年 1 月 23 日 (土) ~ 27 日 (水) 計 6 公演

チ ケ ッ ト 全席指定 一般 4,000 円、学生 2,000 円

出 演 者 音無美紀子、麻丘めぐみ、若松泰弘 (文学座)、村井麻友美

事 業 内 容 可見公演を経ての東京公演として新国立劇場小劇場を会場に開催した。
(詳細は前頁 ala Collection シリーズ Vol.2『岸田國士小品選』(制作公演) 参照)

経 費 状 況 収入 2,259,200 円 支出 5,843,729 円 収益率 38.7%

アンケート
結 果

- ・自分が日々忙しくてどうも落ち着いて静かに気持ち良く暮らすことを長らく忘れていましたが、この舞台をみて減点に帰る気持ちがして多に楽しませて頂きました。私にとって活力を取り戻す貴重な舞台となりました。
- ・試みも内容も満足です。発信をし続けてください。応援しています。
- ・イメージを押し付けず、奇をてらわず、洗練された台詞とシンプルな舞台装置に芝居の原点をみました。

課 題 と
今後の対応

今回は劇団員ではなくタレントの配役がメインであったため、商品としてのタレントをマスコミや市民参加企画等に露出するにあたりプロダクションとの調整に苦勞した面があったが、忙しい稽古の合間をぬっての取材対応や市民とのふれあいにキャストのみなさんが協力くださったことは大変ありがたく、集客の意味においても大きな意味があった。苦勞はあったが、タレント起用に当たっての制作方法について大いに参考となった。

当該シリーズのキャスト・スタッフが可見に滞在し、作品を制作、そして全国発信をするという特徴及び、キャスト、演出家、美術家の知名度を活かし、より多くのマスマーケティングを展開したいと考えていたが、年末年始という制作期間はイベントが多い時期でもあり希望するほどの展開が望めなかったことが悔やまれる。しかし、東京公演においては多くの著名人が観劇くださった。作家の赤川次郎氏に至っては新聞コラムにおいて本公演を取り上げてくださり、可見の試みについて賛辞をいただき、広く知っていただく機会となった。同氏もコラム内で触れていたが、「岸田國士戯曲賞」は知られていても岸田國士の戯曲の上演を見る機会はないというのは、本公演の企画段階よりプロデューサーと演出家の間で練られた“東京ではできない、可見だからこそできる企画”というもので、特に東京公演のお客様からは、いま岸田國士戯曲を丁寧に上演することに対する称賛の言葉を多数いただいた。

前年と同様に市民サポーターを募集し、新規の方も多くご参加くださり、広報面やチケット販売、ケータリング、キャストのケアなど大いにサポートをしていただいた。ただ、稽古場内や劇場入りしてからの裏方に入るにあたって、逆に制作進行の妨げになってしまう場面があった。稽古中は携帯電話の電源は切る、演出家のダメだし中に私語は慎む、舞台セットや小道具等を簡単に扱わない、本番前の楽屋への入室は控える等、規則というまでもないマナー、プロの現場に入る一スタッフとしての心得を、説明会等でしっかり身につけていただく必要があったと反省する。

また前年度のように舞台小道具製作など、やりがいがありかつ参加意義ともなり居場所ともなるようなサポーターにお任せする大きな仕事が、今回はなかったことは残念であった。作品によってサポーターにお願いできる仕事の範囲は変わってしまうのは仕方がないことであるが、できる限り“わが町の、わたしたちの ala Collection シリーズ”という気持ちを盛り上げる意味においても市民参加箇所を確保することは本シリーズを継続するにあたり大切であると感じる。

そして関連企画として舞台美術デザインを担当いただいた文化功労者の朝倉摂さんの展覧会を ala 内のレストランで開催したことは、普段お芝居を見る機会の少ないお客様へのアプローチとして企画面、会場面において大変よかったと思う。今後も ala Collection シリーズを継続するにあたり、さまざまな角度から企画を捉え関連企画を展開していくことは広報面、集客面において有効であると感じる。

目的 映画館のない可児市において、世界の優秀映画を鑑賞する機会を提供する。また、映画を通じて、ala全体の創客に資することを目指す。

集客数 2,358人 席数 4,803席 集客率 49.1% 会場 映像シアター

開 催 日 通年（自主事業2回、共催事業8回）

チケット 無料～1,000円

市民参加 シネコレボランティア

事業内容 アカデミー賞やカンヌ映画祭をはじめ、世界で高い評価を受けた作品を中心に選定し、毎月1作品程度を年間を通じて上映する。また、音楽や演劇などalaの自主公演に関連する作品の上映を行い、自主事業への創客を図る。

なお、映画上映会社との共催事業をすすめて、上映作品の充実を図り、多くの市民が映画に触れる機会をつくることを目指す。

経費状況	収入	341,400 円	支出	865,293 円	収益率	39.5%
------	----	-----------	----	-----------	-----	-------

アンケート結果

- ・ いい映画の上映が多いのが嬉しいです。
- ・ 近くに映画館がないので、近くで観れて大変うれしいです。
- ・ 古い映画のシリーズも観てみたい。

課題と今後の対応

古い名画から新しい話題作まで幅広く作品を選定し、より多くの方々に来場いただけるよう企画したが、作品によって入場者が増減した。映画芸術として優れた作品の中で、可児のお客様に喜ばれるような確かな作品選定を心がけ、安定した入場者を確保していきたい。入場者にこだわりすぎて安易に娯楽作品に流れないように、作品の良し悪しについて組織内でしっかり検討して選定することを徹底していく。



- 市民に高い舞台芸術の鑑賞の機会を提供することによりその芸術活動を刺激し、可見市文化創造センターの利用者の発掘、鑑賞者の育成、芸術活動へのきっかけとなることを目的とする。
- 目的 “アコースティック・ギター”に焦点を当てたライブを定期的に展開していくことで、アコースティック・ギター音楽のファン拡大を図るのみならず、可見市に“ala”という文化・芸術の施設があること、ギターのメーカーとして世界に名だたるヤイリギターが可見市にあることを広くPRし、可見市の文化的、芸術的イメージを全国に発信する。

集客数 326人 席数 335席 集客率 97.3% 会場 演劇ロフト

開催日 平成21年10月12日(月・祝)17時開演、1月17日(日)

チケット 10月 全席自由3,000円、18才以下半額/1月 全席自由500円

出演者 10月 ハンバートハンバート/1月 新ヤングミュージックフェスタ出演者

- 事業内容 これまで継続してきたA. G Townの歴史を踏まえ、さらに広く親しみやすい内容へとシフトさせた。
- オープニングアクトの時間を拡大し、アマチュア出演者を募り、アマチュアアーティストに演奏の機会を提供するものにし、当センターのレストラン(カテリーナ・ディ・アーラ)と協力してチケットをワンドリンク制にした。さらにテーブル席を新たに設け、観客席の充足度を高めた。

経費状況 収入 497,600円 支出 1,273,042円 収益率 39.1%

- アンケート結果
- ・空間の雰囲気が良かった
 - ・alaがとても気持ちの良いところで雑念なく鑑賞できた。
 - ・身近な感じがして感動した。

課題と今後の対応

当該シリーズは4年目を終えた。今年度は公演回数こそ減少したものの、財団による主体的なアーティストの選定や、市民団体との共同作業などにより、新たな観客層の獲得に成功した。アコースティックに限定せず、臨場感溢れるライブスペース等での音楽イベントへ転換期を迎えているように感じる。



目的 公演の印象をも左右するフロントスタッフ業務を市民参加で実施すること及び接客に関わることの意義を理解いただいた上で、来場者により良質なサービスを提供するために研修及びその後のフォローを行う。

集客数 15人 席数 - 集客率 - 会場 研修：主・小劇場
会議：創造スタッフ室

開催日 研修：平成21年4月18日（土）、25日（土）、5月16日（土）、23日（土）
例会：月1回 木曜日

受講料 無料

講師 研修：星乃もと子

事業内容 《研修》
1回目：印象管理の理解と実践、2回目：ala表方運営マニュアル学習、3回目：主劇場での実践、4回目：小劇場、主劇場での実践
《会議》
alaクルーズ支援グループ 例会に職員がオブザーバーとして出席し、特に会員独自が実施するフォローアップについて助言等をする。
《その他》
防災訓練への参加（年2回）、交流会の実施（年1回）、財団主催及び共催公演での活動

経費状況 収入 0円 支出 670,916円 収益率 0.0%

アンケート結果 《研修受講者より》
・人と人との関わりの中で笑顔、言葉、目配り、気配り、おもてなしの心が大切だということを知りました。
・alaクルーズの一員としてだけでなく、今後の私の生き方に大きなインパクトを与えていただいた有意義な研修を受講でき、感謝。
・パワフルで中身が濃い研修を真剣に受講でき、とても充実したひと時でした。今後の活動だけでなく日常生活でも大いに役立ちそうです。

《公演に来場のお客様より》
・てきぱきとした対応が素晴らしかった。ボランティアの皆さんの熱意が伝わってきます。
・親切、丁寧に対応いただいた。ありがとう。
・alaクルーズの方、とても素敵ですね。公演の品格をUPさせています。

課題と今後の対応

alaクルーズの組織としての自立を促すために、これまでの財団との役割分担を大幅に見直す時期となった。公演に関わり、人に関わることの喜びを実感できるような仕組み作りが必要である。今後その作業はまず公演来場者からの意見、alaクルーズ参加者の意見などを鑑みてalaクルーズが主体となって行っていくこととなるが、財団としてはalaクルーズへの正確な情報提供に努める必要がある。また主催者、ボランティアという立場に関わらず、お客様が公演に対して抱く印象は公演情報を手にした瞬間から終演し帰宅するまで連続しているということを念頭において、公演中のみならずその前後においても感動を与えるような対応を常に意識し続けるべきと考える。



目的 地域で活動する音楽団体が一同に会し、発表をすることにより、活動団体の活性化とレベルアップを図り、音楽あふれるまちづくりを目指す。また、総合音楽祭として様々なジャンルの音楽を鑑賞できる機会を広く市民に提供する。

集客数 700人 **席数** 1,019席 **集客率** 68.7% **会場** 主劇場

開催日 平成21年7月5日（日）13時開演

チケット 無料

出演者 可児市及び近隣で活動する音楽団体（9団体）

事業内容 可児市からの受託事業として、可児市及び近隣で活動する音楽団体を公募し、演奏を披露いただいた。
ジャンルは管楽器・弦楽器のアンサンブル、合唱、民族音楽などの複数で構成される団体で主にクラシック、アコースティック系とし、ヤング・ミュージック・フェスタや貸館事業では演奏の機会が少ない愛好家を対象とした。

経費状況 **収入** 900,000円 **支出** 765,135円 **収益率** 117.6%

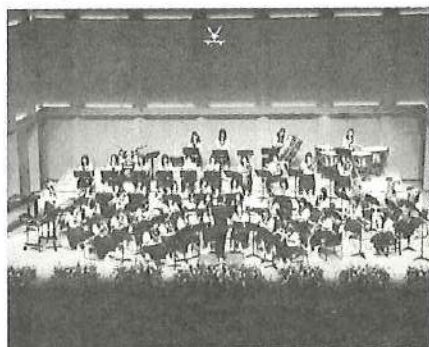
アンケート結果

- ・音楽の祭典らしく各種の音楽が楽しめました。
- ・色々なスタイルの音楽が一度に聞けて楽しかった。
- ・年1回の公演、各々の練習の成果がよく出ていると思います。

課題と今後の対応

今回は応募団体が前年度より少なかったこともあり、土日の2日間で開催していたものを出演希望の多い日曜日に縮小し開催した。そのため来場頂いたお客様には1日で多くの団体の演奏を楽しんでいただくことができた。今後もその年の出演団体などによっては時間帯も含め、開催日程、プログラム構成を検討すべきだと考える。

1日での開催になったため、予定よりも入場者数が少ないが、前年度の2日間の合計に近いお客様に来場していただけた。ただ、興味のある団体だけ聞きにくる方も多く、団体によってお客様の人数にばらつきがあったため、多くの団体を見ていただけるよう工夫をしていきたい。



目的 豊かな人間性を育て、芸術・文化のかおり高いまちづくりをすすめるため、市内外から広く作品を公募し一般公開する。

集客数 2,035

席数 -

集客率 -

会場

音楽ロフト、演劇
ロフト、美術ロフ
ト、ギャラリー、レ
セプションホール、
ワークショップ
ルーム洋室

開催日 平成21年11月25日(水)～29日(日)

出品料 500円/点

市民参加 市民運営委員による企画、方針の策定

事業内容 可児市からの受託事業として開催した。
洋画、日本画、書道、彫塑・工芸、写真、デザイン・イラストの6部門の作品を募集し、
各部門の作品を専門の審査員により審査し、賞を決めた。
入選以上の作品を展示・一般公開し、上位4賞の受賞者に対し表彰式を行った。
また、審査員により作品の講評会を行った。

経費状況 収入 2,457,500円

支出 2,008,556円

収益率 122.4%

課題と
今後の対応

今回から搬入時にそれぞれ作品を搬入する部屋に案内係を付け作品の管理を強化した。出品者からは「管理をしていただけて安心だ」という意見を多数いただき、作品が重ねられて搬入されていたり、審査前の他の方の作品を見て帰られる方を防ぐことができたため、今後も継続していきたい。ただ、時間帯によって作品の搬入数にムラがあるので、一層の検討が必要と考える。



目的 文芸への創作意欲を高め、文芸活動の振興を図るとともに芸術文化のかおり高いまちづくりを進める。
また朗読会を通じて、作品を作るだけでなく、耳からも楽しむ機会を提供する。

集客数 ギャラリー：477人
朗読会：104人
席数 朗読会 104人
集客率 100.0%
会場 展示：ギャラリー
朗読会：演劇ロフト

開催日 平成21年12月10日（木）～13日（日）朗読会は12月13日（日）

チケット 無料

出演者 朗読：酒井伸代 ピアノ：原 ゆうみ

市民参加 市民運営委員による企画、方針の策定

事業内容 可児市からの受託事業として開催した。
【一般の部】
短編小説、随筆、現代詩、短歌、俳句、川柳、狂俳、俚謡の8部門を一般より募集して審査した。
奨励賞以上の作品を会期中、ギャラリーに展示。最終日に表彰式と文芸祭賞受賞作品の朗読会を開催した。
【小・中学生の部】
詩または作文、短歌、俳句の3部門を市内の小・中学生より募集して審査。特選以上の作品を展示した。

経費状況 収入 2,366,000円 支出 1,803,380円 収益率 131.2%

課題と今後の対応

一般の部、小中学生の部共に他市町村と比べても応募数が多く、市民の文芸への関心の高さが感じられる。しかし、審査員からは一般の部において作品レベルに差がありすぎるとの意見もあり、受賞者の顔ぶれがここ数年変わらないことも検討課題となった。運営委員を通して日々のサークル活動などの活性化だけでなく、新規の応募者をどのように増やすかなどが次年度以降の課題となった。一方で小中学生の部は子どもならではの作品が多く、ギャラリーへの来場者からは「楽しかった」と感想もいただけた。

朗読会については例年通りの来場数があり、定着してきたように感じる。



目的 近隣地域で活躍するプロのアーティストと連携し、彼らのパフォーマンスを鑑賞する機会を提供する。

集客数 181人 席数 294席 集客率 61.6% 会場 小劇場

開催日時 平成21年6月28日(日) 16時開演

チケット 全席指定 一般 3,000円 18才以下 1,500円

出演者 GONNA

市民参加 フロントスタッフ(alaクルーズ)

事業内容 GONNAは平成15年結成、名古屋を拠点に置いて全国でだれでも楽しめる和太鼓とマリンバのコンサートを展開している。
今回もノリのいいリズムの曲からクラシック系の現代曲、だれでも知っている曲などを演奏した。打楽器の魅力と共に GONNA ならではのサウンドを体感させらせるステージであった。

経費状況 収入 96,347円 支出 102,000円 収益率 94.5%

アンケート結果
・大変良いステージで久しぶりに刺激を受けました。
・マリンバと和太鼓の音色は思った以上にあっていて感動しました。
・マリンバと和太鼓の不思議な音色がとても面白かった。マリンバの凛とした音と和太鼓の体の底に響く音に圧倒されました。

課題と今後の対応

公演の3週間ほど前からじわじわと集客数が伸びていった。出演者サイドが可児市内や近隣の和太鼓で活動している団体に直接声をかけ、チケットシステムの団体割引制度をうまく利用し販売に繋がっていった。また、プレイベントと称して、花フェスタ記念公園やヨシヅヤ可児店にてイベントを実施し、効果が見られた。今回のような自発的にプレイベントなどを行い、チケット販売につなげていこうと努力する団体を大事にすべきだと感じた。



目的

地元出身でウィーン国立音楽大学を卒業したピアニスト黒木由香と、同じくウィーンで学んだヴァイオリニストの森川耕太、チェリストの森川敏子が結成するウィーンV. ルジェリウスピアノ三重奏団は例年当センターにて公演をしており、毎回好評で前年度は満席となった。今回も前年度に引き続き、誰もが知っている名曲や本場ウィーンの音楽を解説を交え、市民との心の交流を行いながら、気軽にクラシック音楽を楽しめるコンサートを共催により開催する。

集客数 240人 席数 311席 集客率 77.2% 会場 小劇場

開催日時 平成21年7月29日(水) 19時開演

チケット 全席指定 一般2,000円 18才以下1,000円

出演者 ウィーンV. ルジェリウスピアノ三重奏団

市民参加 フロントスタッフ (ala クルーズ)

事業内容

ヴァイオリニストの森川耕太のMCは、ウィーンの様子や曲の解説など、聞き手の興味を引く大変楽しい内容であり、誰でも気軽にクラシック音楽に触れられ、会場の一体感を醸し出す楽しいコンサートとなった。

経費状況 収入 81,819円 支出 92,410円 収益率 88.5%

アンケート結果

- ・ 森川氏の曲説明があるので、分かりやすく、想像して聴くことができる。話も親しみやすく楽しいです。アットホームな雰囲気が好きです。終わった後、聴きごたえがありました。ありがとうございました。
- ・ 曲や作曲家の説明があり、曲を聞く時の想像力がふくらみ楽しく聞くことができた。
- ・ ピアノを聴きに来たのですが、ヴァイオリンやチェロもすばらしくて、とても良かったです。また、曲の前に説明があり、曲のイメージがよくわかったので、よかったです。ステキな演奏に感動しました。

課題と今後の対応

前年同様、観客を巻き込んだ演出でとても盛り上がりのあるコンサートとなった。アンケートを見ると、70%近くがこの公演のリピーターであり、地元で固定ファンが根付いていることが窺える。満足度も約9割と非常に高いことから、次年度以降も継続して共催での公演を開催していきたい。しかしながら、当該公演は今回はクラシックのパッケージチケットの対象外となったこともあり、財団での販売数は伸び悩み、販売数の52%が主催者の手売りであった。パッケージチケット購入者にはオプションでの購入(25%値引き)をお勧めしていたが、販売時のアナウンスをさらに徹底したい。又、ニューイヤーコンサートのピフォアパーティーでもこのトリオから2名が出演するため、しっかりと来年度の公演の宣伝をしていきたい。



目的 市民に質の高い舞台芸術の鑑賞の機会を提供することによりその芸術活動を刺激し、文化創造センターの利用者の発掘、鑑賞者の育成、芸術活動へのきっかけとなることを目的とする。また、可児市在住のピアニストとの共催公演を積極的に実施することで、支出をおさえて低コストで高質の鑑賞事業を展開する。

集客数 310人 **席数** 310席 **集客率** 100.0% **会場** 小劇場

開催日時 平成21年11月29日(日) 15時開演

チケット 全席指定 一般2,500円 18才以下1,000円

出演者 吉鷹奈津子

市民参加 フロントスタッフ (alaクルーズ)

事業内容 市内在住のピアニスト吉鷹奈津子によるコンサート。alaでは平成14年、平成15年、平成19年にオーケストラと共演している。今回はピアノだけを充分に堪能できるようソロコンサートとして実施。普段聴いたことのある親しみやすい曲を中心におしゃべりを交えながらクラシック音楽をより身近に感じられる内容とした。

【演奏曲目】

モーツァルト：「ああ、お母さん、あなたに申しましょう」による12の変奏曲（きらきら星変奏曲）K.265

ベートーヴェン：ピアノソナタ第14番 嬰ハ短調 Op.27-No.2「月光」

ショパン：ノクターン第20番 嬰ハ短調 遺作 他

経費状況 **収入** 90,675円 **支出** 132,075円 **収益率** 68.7%

アンケート結果

- ・吉鷹さんのファンでこのコンサートを待っていました。
- ・最後のノクターンも良かったけど、次は「別れの曲」も聴きたいです。
- ・小粒ながら有名な曲をゆっくり聞かせていただきました。音ひとつひとつのきれいさ、高音のきらめくような音にうっとりしました。

課題と今後の対応

市内在住のピアニストということもあり、来場者には友人、ピアノ教室の生徒や保護者などが多く見られ、温かい雰囲気の中での演奏会となった。小学生の来場者も多かったが、自分たちも弾くかもしれない身近なピアノ曲が多く、最後まで飽きることなく真剣に聴いていた。また、反響板の中で照明の演出も入れたコンサートでピアノの音色だけでなく見た目も美しいコンサートとなった。

アンケートの記入枚数が少なかったため多くの意見が聞けなかった。次回からは終演後のアンケート記入の呼びかけを積極的に行い今後の事業に活かしていきたい。



- 目的 アーティストと観客の距離が近い空間でカジュアルな雰囲気とおなじみの曲のコンサートを開催することにより、市民が気軽にクラシック音楽に親しんでいただく機会を提供し、クラシックファンの増加を図る。
- また、「音楽家の集い」鑑賞会との共催により実施することにより、中部地方で活躍する演奏家との連携を深める。

集客数 273人 席数 400席 集客率 68.3% 会場 音楽ロフト

開催日 平成21年5月23日(土)、7月18日(土)、9月18日(金)、平成22年2月12日(金)
(全4回)

出演者 近隣で活躍するプロのクラシック音楽家

- 事業内容 【音楽家の集い】
プロのクラシック音楽家の演奏を間近な空間で鑑賞する。演奏曲は純クラシックだが、できる限り有名な曲を中心に構成し、初心者にとっても理解しやすい内容とした。また、楽器に関する解説等を行い、教育的意義のある公演とした。
- 出演交渉・契約・実施等は主催者が行い、財団は施設提供等のサポートを行う。
- 【ロビーコンサート】
音楽家の集いの事前告知も兼ねて、施設内にて出演者に演奏を行っていただく。普段音楽に親しみがない方でも、ロビーという解放された空間で演奏を聴くことにより身近なものとして認識していただく。

経費状況 収入 23,200円 支出 10,174円 収益率 228.0%

- アンケート結果
- ・お話しも知識から楽器のことまで楽しく聞けた。
 - ・いい感じの音楽を聴かせて頂き満足です。軽快なトークに演奏素晴らしかった。

- 課題と今後の対応
- 前年度は土曜日の午後に行っていたが今年度はお客様の様子を見るため、開催する曜日や時間帯をバラバラにした。また、年間で3,000円という会員制度を無くしたことで前売り券の売り上げにもつながったのではないかと考える。そして、カラーのチラシを起用したことも集客につながったと考えられる。
- 特に定員を定めておらず、上限100人程度としていたが、今年度最終回には前売りの段階で100人を超える可能性があった。今後さらに地元に定着してきた場合、何人まで入場可能か、席はどのように配置するのか等検討する必要がある。また、最終回はオペラのため、出演者が立っていたので観客からは鑑賞に支障はなかったが、座っての演奏またはパフォーマンスとなった場合ステージを設営するなどの工夫も必要になると感じた。



目的 alaの利用者の発掘、鑑賞者の育成、芸術活動へのきっかけとなることを目的として、特に、鋭い感性を持っている子どもたちには、作品を通じて様々なことを学び、豊かな心を養う機会を提供したい。本事業は、学校と協働で子どもたちに本格的な演劇を鑑賞してもらうことを目的としており、今後は、市内全小中学校を対象に広げていきたい。

集客数 550人 席数 900席 集客率 61.1% 会場 主劇場

開催日時 平成22年1月18日(月) 13時開演

出演者 劇団うりんこ

市民参加 可児市立広見小学校及び東明小学校 5・6年生、教員、保護者

劇団うりんこ『ダイアル・ア・ゴースト』

脚本・演出：山崎清介

主な出演者：原田邦英・下出祐子・大谷勇次・長田光世・内田成信・柴田早苗・村井美奈・牧野和彦・新美英生・長瀬景

来場者：広見小学校5・6年268名、東明小学校5・6年132名 合計400名

事業内容

あらすじ

ウィルキンソンさん一家は、第二次世界大戦中家に爆弾が落ちて、突然幽霊になってしまいます。とまどいながらもそれなりに幽霊生活を楽しんでいましたが、やがて住んでいた家を追い出され、受難の時が始まります。そんな一家を助けたのが、幽霊をひきとりたい人間を仲介する幽霊派遣会社です。紹介されて行った先は孤児の少年オリヴァーがたったひとりで住む大きな屋敷でした。寂しさで生きる気力をなくしていたオリヴァーは、ウィルキンソンさんとの出会いで次第に元気を取り戻します。一方オリヴァーを亡き者にして屋敷を乗っ取ろうとする、いとこのフルトンは残酷で凶暴な夫婦の幽霊を送り込みます。

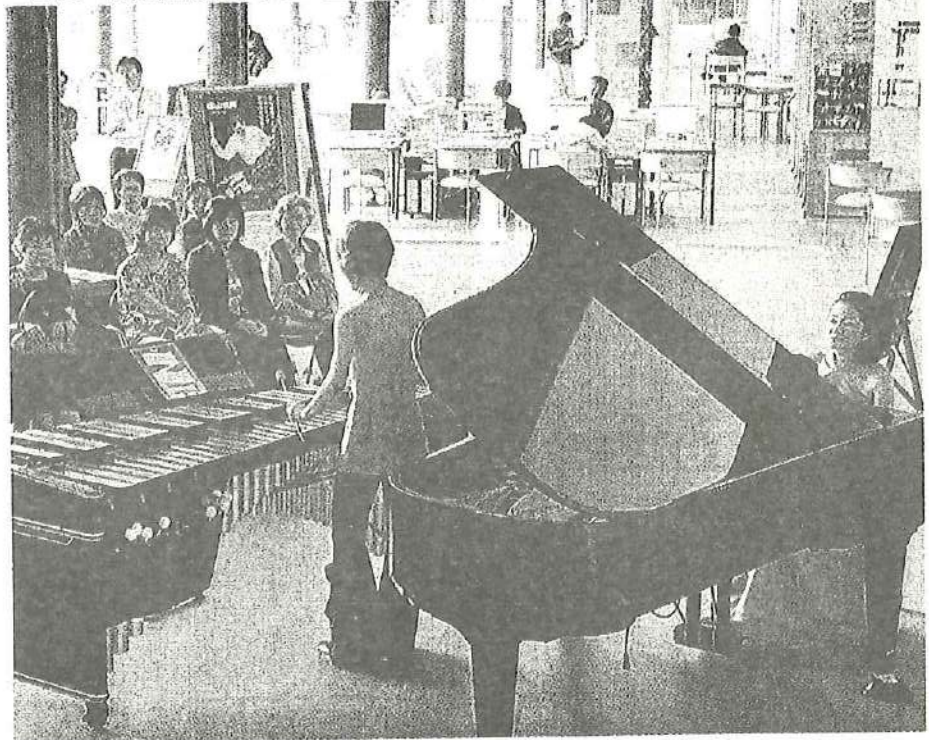
経費状況 収入 500,000円 支出 800,000円 収益率 62.5%

課題と今後の対応

本事業は「子供たちに質の高い作品の鑑賞機会を提供する」という想いを他の学校にも広げるために当財団と広見小学校が連携して実施してきたものだが、3年目でようやく東明小学校にこの趣旨に賛同いただき、一定の成果は果たせた。しかしまだまだ広く他の学校を取り込むまでには至っていない。その背景には各学校に働きかけるための準備（企画内容の決定から日程、予算などの調整）が、学校数が増加するほど大変困難であるといったことがある。今後本事業を継続して実施するためには当財団の強いリーダーシップと、各学校との調整能力が求められる。

中日新聞 平成 21 年 5 月 9 日 (土) 2009 年(平成 21 年)5 月 9 日(土曜日)

ロビーで行われたマリンバとピアノのコンサート＝可見市文化創造センターで



可見市文化創造センター

ロビーコンサート

可見市文化創造センター この日は大垣市出身
の「アキラ」で八日、メで、東海地方を中心に活
動する「凛」の女性二人
初の「ロビーコンサート」が、ピアノとマリンバの
トが開かれ、市民ら約 アンサンブルによる「道
ピアノとマリンバ演奏

市民らに魅了

三十人が美しい演奏に聴 化師のギャロップ「川
き入った。
演奏家と近い距離で、 次々披露した。
気軽に一流の音楽に親し ろビーコンサートは六
んでもらおうと、アキラ 月四日と十三日にも予定
が入場無料で開いた。 されている。(小川邦夫)

竹下景子さん「町並み懐かしい」

可見で4月公演PR



俳優の竹下景子さん「写真」が5
日、可見市役所で山田豊市長らと面会
し、4月2日に可見市文化創造センタ
ーで上演されるコメディ「川を越え
て、森を抜けて」をPRした。
俳優の加藤健一さんが設立した「加
藤健一事務所」の作品。家族のきずな
をテーマに、孫の独立に戸惑う祖父母
が孫にガールフレンドを紹介する物語
だ。竹下さんが祖母役、加藤さんが祖
父役を務める。3月中旬に東京公演が

始まり、続いて可見市と石川県で上演
する。

竹下さんは初めて可見市を訪れたと
いい「懐かしい町並みや山がある。里
帰りしたよう」と印象を語った。上演
に向けて「芝居は演じる側だけでなく、
お客様と一緒につくっていくも
の。ライブの感覚がたまらない。楽し
みにしていたきたい」と述べた。
4月2日午後6時半開演。チケット
は今月7日から窓口で販売し、8日か
ら電話予約できる。問い合わせは同セ
ンター(0574・80・3050)へ。

朝日新聞 平成 21 年 2 月 6 日 (金)

元氣プロジェクト
開始へ応援グッズ
可見のアーラ作る

可見市の公共ホール「市文化創造センター」(通称アーラ)は本年度、地域に根差す文化芸術企画の開始に合わせ、市民の応援グッズとして黄色いピンバッジとシリコンバン



パートナーグッズのピンバッジとシリコンバンド。可見市で

企画は「まち元氣プロジェクト」。アーラが地域拠点契約を結ぶ劇団文学座、新日本フィルハーモニー交響楽団が市内の学校や障害者施設で行っている出前公演やワークショップを拡充する。

また、劇団、楽団員が市民宅を訪問し、スポーツやパーティーなど思い思いの活動で交流する「家においてよ！」も準備している。演劇批評家で就任三年目の衛紀生館長は「一部愛好家ではな

く、市民のための施設を目指したい」と抱負を述べた。

応援グッズは一個五百円で販売。衛館長は「アーラの活動に賛同する意思表示として身に付けてもらう。黄色は希望の色。可見市を希望でいっぱいしたい」と話していた。

(小川邦夫)

教育や福祉…アートで課題解消に一役

地域を元気に

可見市文化創造センター

可見市文化創造センター(通称アーラ)は本年度から「アーラまち元氣プロジェクト」として、教育や福祉、医療などの地域の課題に対し、アートを通じて積極的ににかかわる活動を始めている。12日には、同市内で新日本フィルハーモニー交響楽団の弦楽四重奏と文学座女優・吉野由志子さんの朗読があった。

弦楽四重奏は同市土田の岐阜社会保険病院と同市瀬田の知的障害者更生施設「可茂学園」で、朗読は同市瀬田の老人保健施設「花トピア可見」で行われた。

弦楽四重奏では、モーツァルトの「ディヴ

施設で演奏、朗読会

新日本フィルハーモニー交響楽団の弦楽四重奏と文学座女優

新日本フィルハーモニー交響楽団の弦楽四重奏を楽しむ可茂学園の入所者ら。可見市瀬田



エルティメントへ長「崖の上のポニョ」を調K・138」などを入所者らが一緒になっ演奏。可茂学園では世で歌った。

界に「つたけの花」や

(広瀬丈士)

心に響く障害者の絵画

可児市でエイブル・アート展 あす公開制作も



独特の色彩やテーマの作品が並ぶエイブル・アート展
＝可児市下恵土、市文化創造センター

可児市下恵土の市文化創造センターで、障害のあるアーティストの作品を展示する「エイブル・アート展」が、26日より公開制作も行う。

エイブル・アート展は、障害のある人のアートを可能性の芸術ととらえ、アートを通じて人間性を回復させようとする運動。同展は、市文化芸術振興財団と市の共催。奈良・京都在住の8人による、色彩やテーマ、構成など見る人の魂を揺さぶる絵画52点が展示されている。最終日の26日には、出展アーティストによる公開制作が予定されている。同日は同館で



800人を超える入場者を魅了した新日本フィルのコンサート＝可児市文化創造センターで

新日本フィル

800人の聴衆魅了

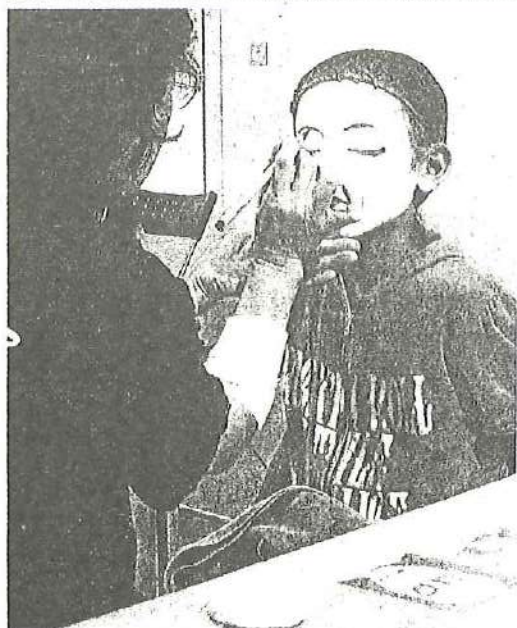
可児でサマーコンサート

可児市文化創造センター(アキラ)と地域拠点契約を結んでいる新日本フィルハーモニー交響楽団の「サマーコンサート2009」いいものはない。オーケストラ名曲選が同センターであり、八百人を超える来場者が楽しんだ。プログラムはビゼー「カルメン」、イベールのフルート協奏曲、ラヴェル「ボレロ」など。指揮は楽団音楽監督のクリスティアン・アルミンク氏、フルー

ト独奏者は白尾彰氏。カルメン第一組曲より「トレアドール」で始まり、「ボレロ」では会場から「ブラボー！」の声がかかるなど盛り上がりを見せた。新日本フィルは弦楽四重奏が学校や福祉施設への出前演奏、アキラでのロビーコンサートを行っているが、本格的なコンサートは本年度初めて。(小川邦夫)

「アキラ祭」が開かれ、館内で音楽や大道芸が披露されるほか、9カ「危機一髪」の公演も国約50人の市民が演劇ある。(広瀬丈士)

9カ国50人が作り上げた多文化共生プロジェクトの演劇「危機一髪」



歌舞伎の化粧を体験する子ども

可児市下恵土の市文化創造センター(通称アーラ)で7月26日にあった「アーラ祭2009」では、多文化共生プロジェクトの演劇「危機一髪」をはじめ、市民が文化や芸術に触れる機会が多くあった。

(広瀬丈士)

グラフィック中濃

可児市でアーラ祭

市民ら芸術、文化に触れる

「危機一髪」は、可児市周辺に住む9カ国の約50人が約3カ月かけて、ワークショップを通じて作り上げていった。

障害のあるアーティストの作品を紹介した「エイブル・アート展」会場では、山野将志さん(奈良県)が色鮮やかな絵を制作する様子を公開した。

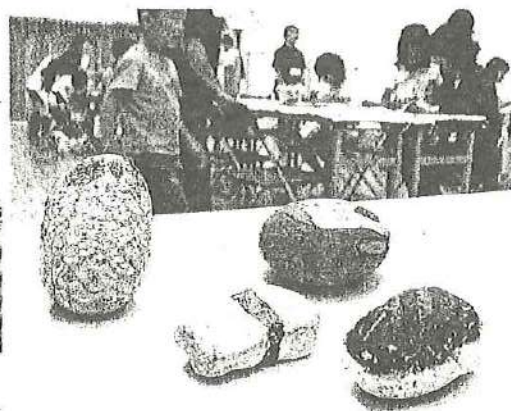
歌舞伎の化粧体験では、可児歌舞伎同好会が来場者に歌舞伎の化粧を施した。

石に来場者が絵を描

石がすしやフクロウに姿身したストーンアート。いずれも可児市下恵土、市文化創造センター



「エイブル・アート展」会場で公開制作する山野将志さん



可児でジャズナイト

19日 森山さんから多彩な演奏

可児市在住の世界的

ドラマー森山威男さん

(左)のライブ「ジャズ

ナイト2009」が十

九日午後六時半から、

可児市下恵土の市文化

創造センター主劇場で

開かれる。今年は森山

さんの原点である「山

下洋輔トリオ」結成か

ら四十年目。盟友のジ

ヤズピアニスト山下さ

ん(左)も

写真も

五年ぶり

に出演



ん(左)も
写真も
五年ぶり
に出演



昨年「ジャズナイト2008」で迫力の演奏を披露する森山威男さん(可児市文化創造センターで)

し、魂を込めたコラボ

で魅了する。

ライブは市文化芸術

振興財団主催、中日新

聞社後援。森山さんは

大学在学中から「トリ

オ」で活躍し、欧州で

も公演。激しい演奏ス

タイルで多くのファン

を獲得し、一九七五年

に退団した。

「トリオ」は今年七

月、東京の日比谷野外

音楽堂で一夜限りの

復活を果たし、ファン

を驚かせた。今回の競

演について「年齢的に

も最後の機会になるだ

ろう」という森山さ

ん。「四十年たち、ど

んな音楽になったか。

その片りんを見せた

い。若いころと遜色な

いくらの真剣勝負で

やりあう」と決意して

いる。

同財団は、毎年九月

に森山さんを中心とし

たメンバーによるライ

ブを催し、今年で九回

目。「森山威男クイン

テット」のメンバーと

山下さん、六人のゲス

トで多彩な演奏を聴か

せる。

料金は全席指定で五

千円。十八歳以下は二

千五百円。問い合わせ

は同センター(電話05

74(60)3311)

へ。(島将之)



崩壊していく家族の間を描き出した
「向日葵の柩」広島公演

柳美里 家族の闇描く

広島で「向日葵の柩」公演

芥川賞作家、柳美里
作の舞台「向日葵の
柩」広島公演（中国新
聞社など主催）が25日、

広島市中区のアステールプラザであった。在日韓国人一家の闇を描いた柳の自伝的作品。家族の在り方をめぐる緊迫感あふれる舞台を、訪れた約220人が静かに見守った。18年前に初演され、柳の出世作となった「まぼろしの舞台」。

母親が家出し、父と兄妹2人が残された一家が崩壊していく姿を通して、家族の闇を描き出した。

飲食店で出会った韓国人女性に恋した兄と、日本人同級生に思いを寄せる妹。舞台の鉄くず置き場で繰り広げられた二人の恋の行方と、家族が迎えた衝撃的な結末を、観客たちは息をのんで見つめていた。（伊藤一亘）



木村大作さんトークショー

可児市文化芸術振興財団「ラ映画祭2009」最終
と実行委員会(中村幸雄委 員の10月12日、日本を代表
員長は、現在開催中の「ア するカメラマン、木村大作

さんを招いてトークショー
を開く。午前9時半から、
可児市文化創造センターで
話題の初監督作品「劔岳
点の記」を特別上映し、終了
後に木村さんの話を聞く。

同映画祭は今年4年目
で、映画好きの市民が集ま

可児の「ア

り、実行委員会を組織。上
映作品の選定から企画・運
営までを同財団と協力して
進めている。今年は9、10
月にまたがって開催。今月
は5、6日に「おくりびと」
など話題の4作品を上演。
10月は上映会に合わせて4
人の監督や女優が参加する
トークショーがある。会場
はいずれも同センター。日
初監督作品の特別上映会でト
ークショーを行う木村大作監督
◎2009「劔岳 点の記」
製作委員会

初監督作品「劔岳 点の記」 来月12日に特別上映

程と上映作品は次の通り。

▽2日「佐藤浩一、志田

未来の「誰も守ってくれな

い」▽2、3日「加瀬亮、

岡田将生の「重力ピエロ」

▽10日「松坂慶子主演の

「大阪ハムレット」上映と

光石富士朗監督トークショ

▽10日「大森南朋主演

「ハゲタカ」▽10、11日

中村雅俊主演「60歳のラブ

レター」▽11日「寺尾聰主

ラ映画祭」

演「雨あがる」と小泉堯史

監督トークショー▽12日

木村大作監督トークショ

と「劔岳 点の記」特別上

映会▽12日「池田千尋監督

と女優・香川京子のトーク

ショーと「東南角部屋二階

の女」上映会

前売りチケットは1作品

一般800円、18歳以下4

00円。当日券は一般10

00円、18歳以下500円。

問い合わせは同センター

(0574・60・331

1)。
【小林哲夫】

在日外国人との共生視察

欧州評議会が可児と美濃加茂に



多言語で行ったパフォーマンスの出演者等と意見交換する欧州評議会関係者ら＝可児市下恵土で

国内で多文化共生施設を進める自治体と交流を図るため来日した欧州評議会関係者らが二、三日の両日、可児市と美濃加茂市を訪問し、在住外国人との共生に向けた両市の取り組みを視察した。

二日に訪れた可児市文化創造センターでは、七月に九カ国約五十人が出演した舞台作品が記録映像で紹介された。経済危機や日常の問題を寸劇や歌を交えて表現した多文化共生の取り組みで、出演者も加わった意見交換では視察メンバーが「どのように参加を募ったのか」となどと盛んに質問していた。

同市では外国籍児童らを支援する「ばら教室KANAI」なども視察。評議会のガブリエラ・バツタイニさんは「日本の学校に溶け込めるよう支える教室の取り組みは素晴らしい。欧州でもなかなかないのでは」と話した。三日は美濃加茂市の

定住外国人自立支援センターなども訪問した。一行はウクライナ、オランダなど各国の自治体首長や議員、学識経験者らで構成。神戸市も視察後、都内でシンポジウムに参加し、七日に帰国する。(島将之)

文学座の俳優 市民らと交流

可児でパーティー

可児市長坂の平野澄子さん(53)方で7日、劇団「文学座」の俳優の頼経明子さん(31)を招いてホームパーティーが開かれた。

市文化創造センター(愛称「アール」)が、俳優と市民との交流の場として企画した。文学座の俳優らは昨年、演劇「向日葵の柵」をアールで練習し、全国で上演している。

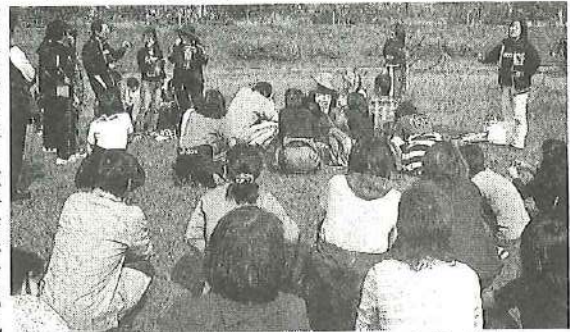
平野さんも「市民サポーター」として小道具作りなどを支えた。サポーターらはその後花見などをして交流を続け、今回、頼経さんを招くこ



とになった。集まった市民ら11人は頼経さんを「あきちゃん」と呼び、一緒に巻きずしやピザなどを作って楽しんだ。写真。夜は参加者の「芸披露」もあり、頼経さんは平野さん方に宿泊。平野さんは「俳優に会える機会はめったにないので、一緒に楽しみたい」と話していた。

子どもと遊び、心つかむ

ワークショップ 講座に30人参加



ワークショップの運営リーダーを養成する講座＝可児市中恵土

可児市下恵土の市文化創造センター（通称アーラ）で、子どもの笑顔を引き出すためのワークショップを運営するリーダーの養成講座が始まった。講座は

3年計画で開かれ、1年目は受講生がワークショップを実際に体験、子どもの心を取り戻していく。ワークショップは、参加者全員が自発的に作業・体験する学びと創造の手法。アーラは地域に派遣できるワークショップリーダーを育てようと、講座を企画した。

講座には、可児市を中心に愛知県などから約30人が参加。年齢層は16歳から68歳と幅広い。講師は、今年3月

にアーラで上演された市民ミュージカル「あいつと地球と競走人」を演出した黒田百合さん（金沢市在住）が務めている。

講座では、アーラ・ユース・シアターの子ども20人も参加。グループに分かれて屋外で「あいうえお」などで始まるものを探した。可児川沿いの公園では

を丸めた刀を武器に旗を取りあう「旗とりチヤンバラ」をし、大人も子どもも夢中になっていた。

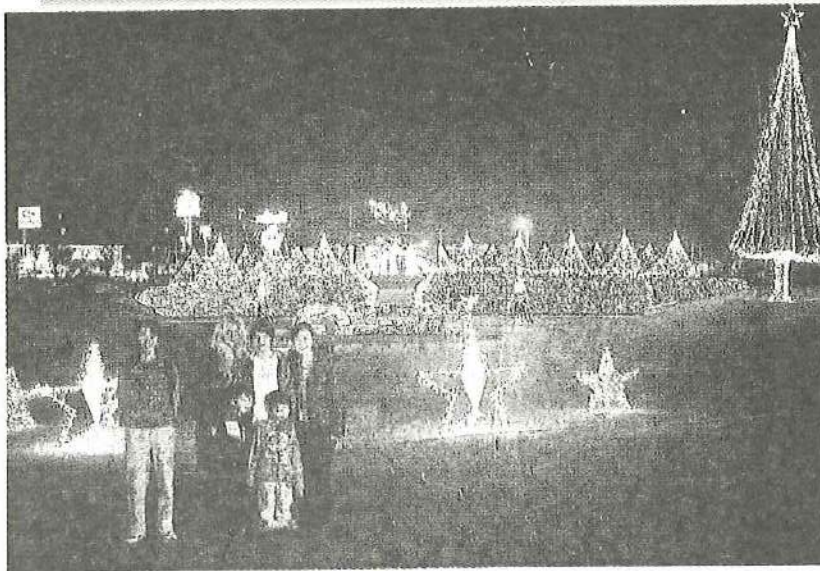
黒田さんは「お金で面白さが買える時代に、子どもの遊び心を引き出すため大人も体験した。大人が配慮すべきことをこれから学んでいく」と話した。

（広瀬丈士）

岐阜新聞 平成 21 年 11 月 18 日（水）

岐阜新聞 平成 21 年 11 月 22 日（日）

冬の夜彩る 電飾の森



点灯が始まったアーラ・イルミネーション＝可児市下恵土、市文化創造センター

可児のアーラ

可児市下恵土の市文化創造センター（通称アーラ）で20日夜、イルミネーションの点灯が始まった。電球約4万5千個が使われ、冬の夜空に光の森が浮かび上がった。

イルミネーションは2007（平成19）年に始まった。今季初日の点灯式は、アーラの多文化共生プロジェクトに参加したブラジル国籍の渡部・ルセラさん（47）＝同市今渡＝ら6人が行った。ルセラさんは「点灯の瞬間がすごく気持ちよかった。クリスマス気分も味わえた」と話していた。

点灯は休館日を除く来年1月24日までの、午後5時30分の点灯式から同10時20分まで。点灯式は毎日行われ、公募の市民らが思い出に残す。参加者には、職員が撮った写真を使ったポストカードが贈られる。

（広瀬丈士）



新日本フィル 聴衆1000人魅了

可児市文化創造センターと地域拠点契約を結ぶ「新日本フィルハ

可児で演奏会

「モニー交響楽団」の演奏会が二十二日、同センター主劇場であり、会場を埋めた約千人の聴衆を美しく力強い響きで魅了した。写真。

「ぼ」などの唱歌を披露。赤星さんが物語の解説を加えたアニメ「となりのトトロ」なども演奏し、楽しませた。

同団は一九七二(昭和四十七)年、指揮者小沢征爾さんの下で団員の自主運営のオーケストラとして設立。現在、東京都墨田区のホテルを本拠地に活動している。

(島将之)

泣けて笑えるオジサン舞台

27、28日 可児市で「定年ゴジラ」



「定年」ジラを「希望を持った劇だと思つ」と話す演出の西川信広

仕事一筋でやってきた中年のオジサンが、定年を契機にあつたため人生と向き合つ文学座の「定年ゴジラ」が二十七日、二十八日、岐阜県の可児市文化創造センターで上演される。

重松清原作の「定年ゴジラ」は一九九八年に単行本化され、二〇〇一年にNHKでドラマ化。今回初めて舞台化される。脚色は同県下呂市出身の杉浦久幸。

銀行を定年になったばかりの山崎(坂口芳貞)は東京・新宿から一時間半の所にあるニュータウン暮らし。朝の散歩に出かけるうち、定年族の先輩の町内会長(加藤武)ら似た境遇の仲間と知り合つ。仲間と交流を重ねるうち、これまで知らなかった町に愛情がわき、自分の居場所も見え

てきて…。

「シリアスだけどユーモアがあり、泣けて笑える。小説が出た時に舞台化できると思つていた」と演出の西川信広。環境が整い、ようやく舞台になるが、「原作が出た十余前に比べると年金や医療問題など、定年後の人間の生き方は厳しくなっている」と見る。

どこにでもある人や家族に潜む優しさ、悲しみ、喜びなどを丹念に書く、というのが西川の重松作品評。舞台化にあたっては、「原作からどこを取捨選択するか悩ましいですが、その制限の中で原作の持つ味を失わないようにしたい」。

団塊世代を意識して劇中、ビートルズナンバーを流す「隠し味」もある。

出演はほかに、川辺久造、坂部文昭、関輝雄ら。3000円。☎0574(60)3050 同センター(山岸利行)



子どもたちが見守る中、きねを振るう音無美紀子さん＝可児市文化創造センターで

音無さんらも飛び入り

可児で鏡もち作り楽しむ

可児市文化創造センター（アーター）で二十七日、一年間の締めくくりと二〇一〇年の安全な運営を願う、地元産のもち米を使った鏡もち作りがあった。アーラの運営を補助する特定非営利活動法人（NPO 法人）アーラクルーズ会員や、来年三月の舞台「オーケストラで踊ろう」に出演する子どもたち四十人が参加。計二十きの鏡もちと紅白のもち花を作った。

一月に同センターで始まる舞台「岸田国土小品選」に出演する女優の音無美紀子さん、麻丘めぐみさんらもけいこの合間を縫って飛び入り参加。周囲の「よいしょ、よいしょ」の掛け声に合わせて、きねを振るって

（志村彰太）

新年に本場のワルツ

可児ウィーンの楽団演奏会
本場のウィーンナワルツ的な楽団「ウィーン・ツの調べを届ける世界」フォルクスオーパー交

「響楽団」の演奏会が六日、可児市文化創造センター主劇場で開かれた。

作曲家ヨハン・シュトラウス二世が手掛けたオペレッタ、ワルツを中心に演奏。指揮者くさきドナウも奏で、八百人余の聴衆を魅了した。

同楽団は都内を皮切りに、年毎に五都府県で巡回公演する。

（島将之）



ウィーンの本場のワルツを奏でる楽団員＝可児市文化創造センターで

あすから舞台「岸田國士小品選」

「可児市下恵土の市文化創造センター・アール」で15日から、「アール・コレクション・シリーズ」の第2弾「岸田國士小品選」の公演が始まる。可児市で制作した舞台が全国に向けて発信される。20日まで。

同シリーズでは、第一線の俳優やスタッフが1カ月近く可児市に滞在し、けいこなどを重ね舞台制作する。

今回は、アールと地域拠点契約を結んでいる文学座の創設者の一人、岸田國士の戯曲から「紙風船」「葉桜」「留守」の3作品を選んで舞台化。娘と母、夫婦など人間の微妙な心の動きを描く。

出演は音無美紀子さん、麻丘めぐみさん、若松泰弘さん、村井麻友美さん。演出は西川信廣さんが手掛ける。公演を控

可児で1カ月滞在、重ねたけいこ

音無美紀子さんら 豪華キャストで制作



えた記者会見で音無さんは「初めて演劇を見る人が演劇を好きになるきっかけになるのでは、麻丘さんは「東京以外でも演劇ができることが広まれば」と期待した。

可児市での公演の後、

また関連企画として、今回の舞台美術を手掛けた朝倉根さんが描いた猫の絵が20日まで、アールで展示されている。

公演の前に意気込みを語る音無美紀子さん(右から3人目)、麻丘めぐみさん(同4人目)ら「可児市下恵土、市文化創造センター・アール」

麻丘めぐみさんら出演

岸田作品の公演

可児で開幕

女優麻丘めぐみさんの機微を描いた作品らが約一カ月間、可児市内に滞在し、けいこを重ねた演劇リメーク作品の公演が十五日夜、市文化創造センターで始まった。

同所で舞台制作し、都市部に発信する試みの第二弾。地域拠点契約を結ぶ劇団文学座の創設者の一人、故岸田國士の短編「紙風船」「葉桜」「留守」の三本立て。夫婦、母と娘など身近な人同士の心

問い合わせは同センター・インフォメーション＝電0574(60)3050＝へ。

(島将之)



「紙風船」で夫婦役を演じる麻丘めぐみさん(右)と若松泰弘さん＝可児市文化創造センターで

「可児市文化創造センター」岸田國士小品選」

音無・村井が母娘共演

岐阜県の可児市文化創造センターが制作する「岸田國士小品選」が、23日から27日まで、東京・初台の国立劇場で上演される。

地方劇場が制作する舞台でも、けいこは東京というケースが多い

が、俳優らが現地に滞在して制作するというユニークな企画。岸田の短編「紙風船」「葉桜」「留守」を西川信廣が演出し、音無美紀子・写真左と村井麻友美・同右の親子らが出演する。

昨年12月上旬から可児の賃貸マンションに住み、けいこをしてきた音無。「市民の方が食事の用意や送り迎えなど、率先して芝居作りに参加して下さる。朝起



きてから夜寝るまで、自分のことだけ考えればいい」と、職住近接の利点を語る。

二人は、見合いをした娘と母のやり取り「葉桜」で共演する。「娘に『何であんな男がいいの？』と言った

り、母親なら誰もが持つ心配を面白く描いている。実際の親子で演じるだけにおかしい」と音無。娘の村井も「普段、母に腹が立つ気持ちと重なる。

母の演技はやっぱりうまいと思うが、食らいついていきたい」と意気込んでいる。音無は女中同士の会話劇「留守」にも出演。共演は麻丘めぐみ、若松泰弘。

03・5355・1332

享月 日 第11 頁 (夕刊)

2010. 2. 18

第3版(朝日新聞)

(全国版)

木曜

三毛猫ホームズと

劇場に行こう

赤川次郎

「直木賞」は知っていても、直木三十五の作品を読んだことのある人はほとんどいないだろう。同様に、「岸田國士の戯曲」は知られていても、岸田國士の戯曲の上演を見る機会はない。

岐阜県の可児市文化芸術振興財団というところが、岸田國士の短編戯曲三つを上演、新国立劇場小劇場でも見られるというので見に行つた(1月28日)。

結婚一年目で、早くもお互い気持ちすれ違い始めた、若い夫婦を描いた「紙風船」。

お見合いをした娘と、その気持ちすれ違い始めた母の「葉桜」。ちよつとい家の女中が、隣の家の女中と、主人の留守中に互いの家の噂話を花を咲かせる「留守」。

どれも30分ほどの、ドラマというよりスケッチのような小品だが、映画のものを「活動」と言つたりするのを除けば、全く古さを感じさせないのに驚いた。古風な言葉づかいが、むしろ美しく、耳に心地よい。

最近の演劇のように、客席に向かつて怒鳴つたりするのはなく、あくまで舞台の上で、ごく自然に語り合い、しかも日常会話のようで、実はむだなく劇を構成している。

中では「葉桜」が一番まとまっていた。「留守」はあまりに短くて、もう少し展開してほしい気がする。しかし他の作品も見てみたいという思いに駆られるほどの魅力がある。

「紙風船」の若妻と「留守」の女中の麻丘めぐみ、「葉桜」の母親と「留守」のもう一人の女中の音無美

見る機会はないが

紀子の二人は、TVドラマくらいでしか見ていなかったが、どちらも生き活きとして達者なのでびっくりした。本格的な舞台で見たものだ。また「葉桜」で母親は、音無美紀子と村井麻友美という本当の母娘共演である。

「紙風船」では、若い夫婦が気まぐれなところへ、子供の紙風船が庭先に飛び込んで来て、夫婦でその紙風船を打ち合っている内に、朗らかな気分になつてくるという結末なのだ。

どこかで見た場面だな、と思つたら、成瀬巳喜男監督の映画「驟雨」の結末にそっくりだ。ここではもつと結婚生活の長い、倦怠期の夫婦の話である。

調べたら、「驟雨」は岸田國士の何本かの短編を水木洋子がシナリオにまとめたものだった。似ているはずだ。しかし映画では夫婦の溝はもっと深く、ボールを打ち合うくらいで解決するというのはずいぶん安直な結末だと思つたことを憶えている。紀伊國屋ホールでは、吉行和子さんのラストステージ「アブサンス」もある不在。(1月20日)。

私の原作の映画「ふたり」にワンシーン出ていたたいしているが、こうして舞台の主役として見ると、張りつめた演技がみごとだ。「ラストステージ」は早過ぎるのでは。

「ある不在」というタイトルは、私の世代の映画ファンには、アンリ・コルビの名作「かくも長き不在」を思い出させる。せつない映画だった。

9

芸 能 愛・岐・三

2010年(平成22年)1月23日

可児市文化創造センター「岸田國士小品選」

岐阜県の可児市文化創造センターが、一昨年に続いてオリジナル作品を

安住恭子の 舞台・リズム

作った。岸田國士の短編三作品による「岸田國士小品選」（西川信廣演出）。丁寧な演出と音無美紀子らの出演で見応えがあった。



「葉桜」で初共演した音無美紀子と娘の村井麻友美。23日から東京でも上演

日常に潜む無意識 鮮やかに

岸田戯曲は、何げない日常のスケッチから、隠された思いや本人も気付かない無意識をあぶりだす会話に魅力がある。ある日曜日の若夫婦を通して、共に暮らすことが愛をすり減らす様を描いた「紙風船」。結婚する娘の幸せを願いながら残さる寂しさを隠しきれない母と、それを分かりながら女としての思いを募らせる娘の「葉桜」。どちらにも簡潔なやりとりか

ら、言葉にしきれない生々しい感情がふつふつと沸き立ってくる。

そして「留守」は、登場人物がもう一人増えたことで、劇的世界がさらにダイナミックに膨らん



だ。主人の留守に息抜きをするお手伝いさん二人の屈託ないやりとりから、一人の隠し事があからさまになる。そこへ八百屋がやってきて、彼女に思いを寄せていることをにおわせる。けれども彼女らは自分たちの話題に夢中で、彼のことなど歯牙にかけない。

描き出される感情や無意識は、すべて私たちに身近なことばかりだ。そして「留守」の三人が三者三様の思いを抱きながらすしをばくつくラストシーンのように、それらを全部飲み込んで日々は続くのだ。けれども芝居として切り取られた時、そつした人生をいとおしいと思う。岸田戯曲のマジックはそこにある。（16日、可児市文化創造センター小ホール）



可児市文化創造センターの市民参加公演「オーケストラで踊ろう」の練習風景

「劇場法」って何？

国内外の関係者、名古屋で議論

国内外の舞台芸術関係者や研究者、行政担当者が集まる世界劇場会議国際フォーラムが2月12、13の両日、名古屋で開かれた。今回、最も関心を集めた議論のテーマは、舞台芸術を上演するだけでなく創作する拠点を全国に育てる法律「劇場法」制定への課題だった。劇場法とは何か。公立ホールは「ハコ」から脱皮できるのか。フォーラムでの討議などを基に探った。

(伊佐恭子)

公立ホールを「創造の場」に提言

仮称「社会の活力と創造的な発展をつくりだす劇場法」は日本芸術家団体協議会が文化庁の支援事業として研究し、昨年3月に提言した。演劇やコンサートができる公立ホールは2千余りあるが、ほとんどは東京の劇団や著名な演奏家の公演を見せる事業や、地元での文化活動や講演会などの貸し館事業にとどまっており、自ら演目を制作するホールはわずかだ。

そこで、まず法的に「劇場法」を先取りする形で、現在、国会で審議中の新年度(2010年度)予算案には、地域の劇場の専属劇団や提携する芸術団体の優れた公演、市民参加の舞台やワークショップなど、地域での制作、教育普及や人材育成を支援する文化庁の新規事業(16億円)が盛り込まれた。全国80地域程度を想定している。

フォーラムでは、法理論の観点から「ある特定の劇場を対象に、芸術文化振興という理由で国が支援する法律がつくれるか疑問」という指摘や、「劇場に求める役割があ

まりにも多い」という意見が出た。舞台芸術、音楽、照明など技術者の安全確保のため、法整備が必要という発言もあった。

立劇場は岐阜県可児市文化創造センターだけ。演劇評論家の衛紀生さんが館長兼劇場総監督を務めている。新日本フィルハーモニー交響楽団や文学座と契約を結び、可児での定期的な演奏会や舞台制作を実現。市民参加企画にも力を入れ、3月に市民オーケストラ可児交響楽団の演奏で総勢200人の市民ダンサーが踊る「オーケストラで踊ろう」を上演する。

衛さんは「東京一極集中をなくし、文化による地域振興を進める考えには同意するが、全国的に一気にやれるかどうか。演劇や音楽関係団体と協力し、自治体と交渉でき

る芸術監督の人材は限られるし、現場の職員の負担は大きくなる。実演団体の方も劇場に必要とされるか選別される」とみる。

新国立劇場など全国の公立文化施設計画に携わってきた清水裕之・名古屋大教授は、1993年に初めて世界劇場会議を提案して事務局代表を務めた。「会議は公立ホールを入れ物ではなく、継続的な創造の場とする方法を考えよう」と始めた。十数年たつて理

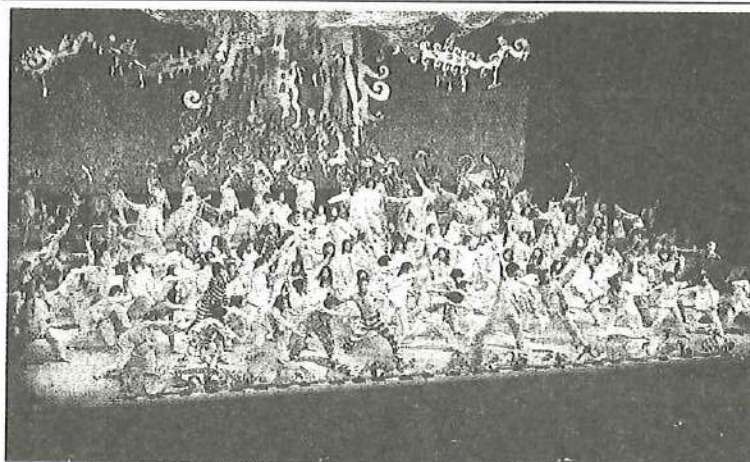


■英国人演出家が来日
総勢200人の市民が交響曲の演奏とダンスを披露する「オーケストラで踊ろう」が、13日から可見、大垣両市で上演される。その助っ人として英国の演出家ヒラリー・ウェストレイクさん(64)＝写

真右＝が2月末から参加している。4日に記者会見を開き、抱負を語った。
ウェストレイクさんは、エリザベス女王の在位50周年パレードも手がけた著名な演出家。今回の作品は、6、74歳の踊り手が同じ振り付けを披露することから「英国では、年齢によって別の振り付けにしている」と、練習方法の違いに驚いたという。本番に向けて「出演者が演技に込めた思いが、しっかり観客に伝わるようにしたい」と話す。
構成と振り付けを担当した坂本公成さん(42)＝同左＝は、踊り手がパジャマ姿で登場する理由について「夢の中のように、(交響曲ができた)100年前のフィンランドまで旅が出来れば」と話していた。

2010. 3. 14

中



オーケストラの荘厳な音色に合わせて創作のコンテンポラリーダンスを繰り広げる出演者たち＝可見市文化創造センターで

オーケストラ演奏に 200人迫力創作ダンス

可見 初日公演、観客を魅了

可見、大垣の有志市「踊ろう」の初日公演が調べにのせて、パジャマ姿の踊り手が一体演ずる総勢200人の舞造センター主劇場で台「オーケストラであつた。クラシックのラリーダンスを繰り広げた。

市民参加型でオーケストラと創作ダンスを融合させた国内でも初の取り組み。フィンランドの作曲家シベリウスの「フィンランド」の「交響曲第二番」をバックに、人々が夢の中で不思議な森と湖の世界を旅する情景を舞台化。六歳から八十歳までの踊り手が、目まぐるしく変わる曲調に合わせて、緩やかな振り付けから激しい動きまでこなし息の合った踊りを披露した。

舞台上を彩る動物をもあり、迫力の演出でモチーフにした美術セットの制作には、専属の作家を中心にボランティアも参加。終盤には、子どもらが客席に飛び出し、会場全体に踊りの輪を広げる場面(円)。(島将之)

公共文化施設の運営

「芸術の殿堂」から「人間の家」へ。3年前、岐阜県の大見市文化創造センター（アーラ）館長に就任した直後に私が掲げた職員へのメッセージである。

米国の地域劇場は人口のおよそ2%前後の芸術愛好者によって支えられている。彼らの購入するチケットによる事業収入と個人寄付が運営費の大きな割合を占める。しかし、日本の公共文化施設は、当該地域の住民から強制的に徴収した税金で設置運営している施設である。

従って、一部の芸術愛好者のためだけに運営されているわけではない。すべての市民を視野に入れたサービスを地域社会に供給することなしには、その存在さえ許されないのである。「芸術の殿堂」でありようもない。分かっているようで、この構造的課題が実践されている公共文化施設はほとんどない。

すべての市民に文化権

すべての市民は、文化を享受し、参画し、創造する「文化権」を生まれながらに持っている。これは憲法第13条で保障されている「幸福追求権」の一部である。子どもであらうと、障

「経験価値」高める演出必要



大見市文化創造センター館長

衛 紀生

えい・きせい 1947年生まれ。演劇評論家。地域演劇の振興を目指すNPO法人舞台芸術環境フォーラムを設立。2007年4月から現職。著書に『芸術文化行政と地域社会』（テアトロ）など。

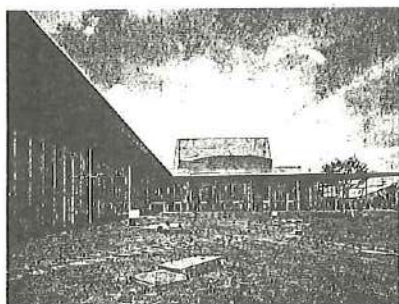
害者であらうと、高齢者であらうと、長期入院患者であらうと、故国から離れて働く外国人であらうと、その権利は地域の公共文化施設によって保障されるべきである。それが「地域劇場」運営の理念である。

アーラは、市内の教育機関、福祉施設、医療機関、宅老所、多文化施設などにアーティストを派遣している。この「アーラまち元気プロジェクト」は、今年度は180プログラム、来年度は275プログラムになる。このほかに子どもたちの申し出で結成した「アーラ・ユースシアター」、国際交流基金から高く評価されて欧州評議会の視察を受け、昨年は10カ国60人が参加した「多文化共生プロジェクト」、教師、一般市民、高校の演劇部・ブラスバンド部などを対象とした多様なワークショップ

ブ事業などがある。

ひろく優れた舞台芸術を上演し、市民が鑑賞できるようにする事業にも力を入れている。そのために、新日本フィルハーモニー交響楽団、劇団文学座と日本初地域拠点契約を結び、定期公演をし、本格的自主製作・発信事業をすすめている。

自分たちの事業定義をサービ



大見市文化創造センター

ス業とはせずに「経験価値」提供業としたことが、アーラの経営の出発点だ。「人間の家」はその具体的な目標設定である。

「経験価値」とは、最近企業マーケティングで注目されている考え方で、まさにその場でお客さまが感じ、受け取る人間的な感情や心情に与える価値である。コンサルタントの梅沢伸嘉氏は、消費者には「心豊かな人生を送りたい」「尊敬され、必要とされ、人間として認められて生きる人生を送りたい」「自分を高める人生を送りたい」など10の「幸福追求ニーズ」があると説く。そうしたニーズに対する満足度が高い商品や体験は「経験価値が高い」。私は公共文化施設の経営とは利潤を上げることではなく、新しい価値をつくること、市民の経験価値を高めることだと考えている。そして、職員の役割はその価値を高度化する「演出家」である。

チケット販売にも反映

「経験価値」を高める工夫は、チケット販売の仕組みにも反映されている。通常、チケット価格は大人と子ども、前売りや当日料金くらいの区分しかないが、アーラでは公演2週間前に15%割引、当日午前0時からネットで購入は半額になるし、大人数なら最大30%割引のサービ

スがある。正規料金で購入した観客に不満が出ると思われるかもしれないが、逆だ。虫食い状態の客席より、満席で鑑賞する方が「経験価値」が高くなることは自明である。むしろ正規料金の観客の「経験価値」の高度化を企図している。

75歳以上の方にはチケットをお宅までお届けして職員がお声掛けする「お元気ですかチケット」などの社会貢献型チケット販売も実施している。誕生月のお客さまの席に手作りのカードとバラを一輪おいておき、私がご挨拶する「バースデイサプライズ」や、イルミネーションの点灯式のとに記念写真をすぐにカードにするサービスも、「経験価値」の高度化を職員が「演出」している事例である。

「To Somebody」(「For Somebody」)から「期待値を上げる」驚きの演出が、「創客経営」の実践である。アートマネジメント講座や研修会は1990年代半ばから花盛りだが、公共文化施設の大半は、経営もマーケティングも何ひとつやってこなかったと言わざるを得ない。「疾風に勁草を知る」(烈風の中で強い草だけが生き残る)時代である。公共文化施設の管理職は心しなければなら

4 アーラフレンドシップ会員集計表

平成22年3月31日現在

(1) 地域別集計表

(単位：人)

岐阜県	平成20年度	平成21年度	増減
可児市	1,786	2,281	495
美濃加茂市	251	330	79
多治見市	228	323	95
加茂郡	196	270	74
可児郡	165	212	47
各務原市	67	92	25
岐阜市	47	79	32
土岐市	63	78	15
関市	23	38	15
瑞浪市	7	16	9
大垣市	5	14	9
美濃市	7	12	5
中津川市	9	11	2
恵那市	4	11	7
その他	32	58	26
岐阜県計	2,890	3,825	935

愛知県	平成20年度	平成21年度	増減
名古屋市	78	134	56
犬山市	71	101	30
春日井市	34	51	17
江南市	18	27	9
一宮市	16	25	9
小牧市	18	23	5
その他	88	173	85
愛知県計	323	534	211
他県計	146	250	104
合計	3,359	4,609	1,250

(2) 男女別集計表

(単位：人)

年齢構成	平成20年度			平成21年度				増減		
	男	女	計	男	女	計	構成比	男	女	計
0～9歳	0	0	0	11	27	38	0.82%	11	27	38
10～19歳	15	42	57	8	22	30	0.65%	△ 7	△ 20	△ 27
20～29歳	66	129	195	110	199	309	6.70%	44	70	114
30～39歳	171	361	532	237	509	746	16.19%	66	148	214
40～49歳	240	449	689	347	610	957	20.76%	107	161	268
50～59歳	305	570	875	428	714	1,142	24.78%	123	144	267
60～69歳	266	445	711	375	599	974	21.13%	109	154	263
70～79歳	92	153	245	139	202	341	7.40%	47	49	96
80～89歳	16	31	47	21	35	56	1.22%	5	4	9
90歳以上	2	6	8	3	13	16	0.35%	1	7	8
合計	1,173	2,186	3,359	1,679	2,930	4,609	100.00%	506	744	1,250

IV 事業・運営の実績及び経済波及効果等 に関する調査研究(抜粋)

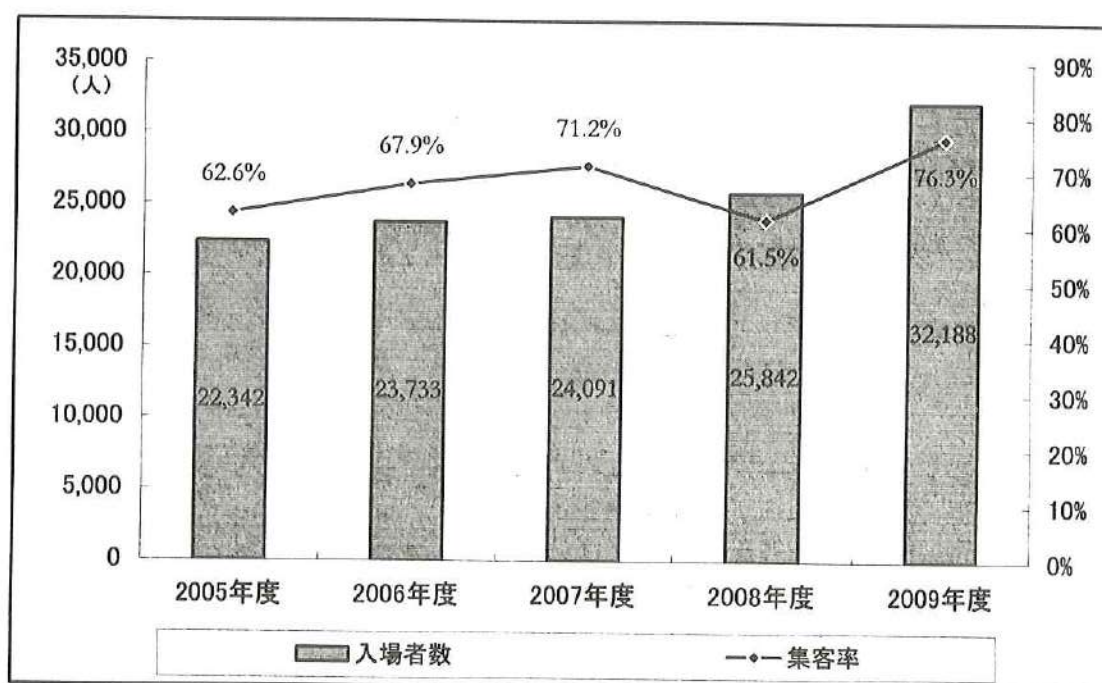
1. 過去5年間の推移

(1) 過去5年間の自主事業の推移

① 入場者数と集客率

- 過去5年間の自主事業を見ると入場者数は毎年増え続けており、2005年度に約2万2,000人の入場者が、2009年度では約3万2,000人と、5年間で1.4倍の伸びを見せた。
- 集客率に関しては6割から7割前後で増減があるものの、2008年度に61.5%の集客率が、2009年度では76.3%に大きく伸びている。

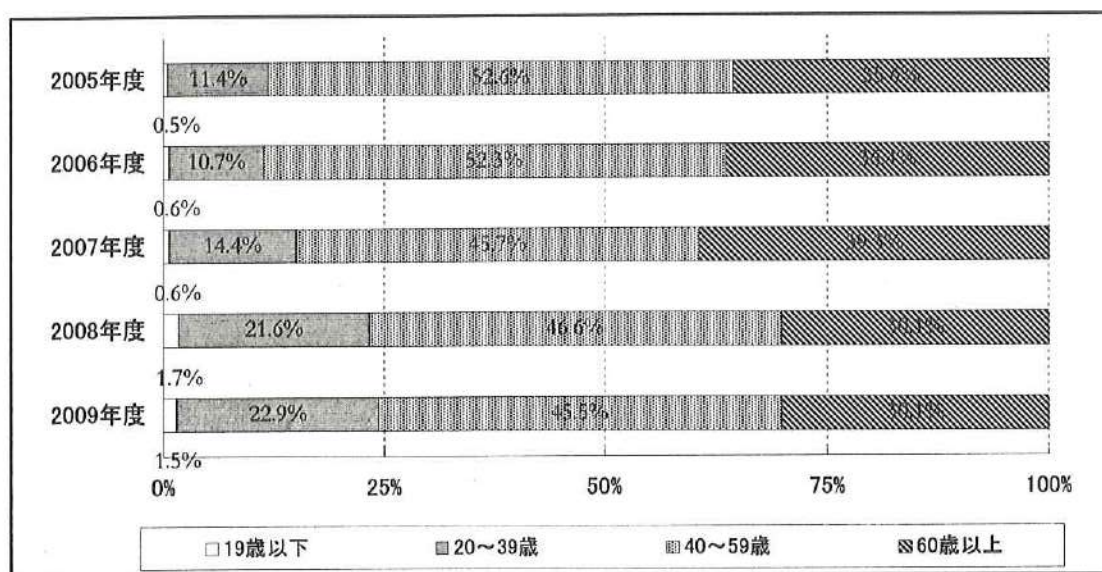
[過去5年間の自主事業における入場者数と集客率]



② フレンドシップ会員数

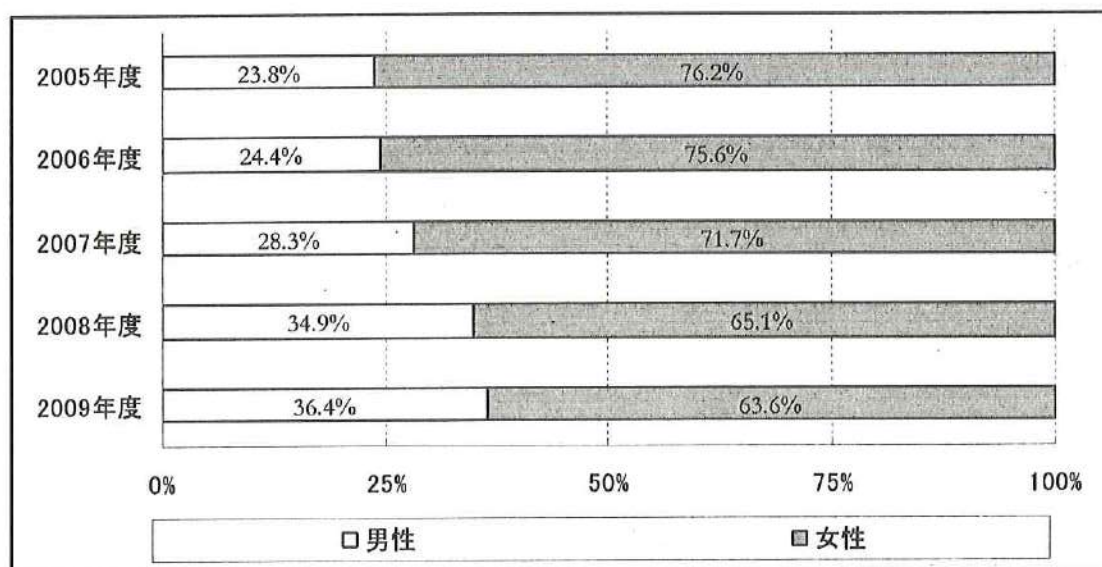
- 年齢別で見ると、過去5年間を通じて40～59歳の構成比が最も大きいものの、2006年度では52.3%だったのが、2009年度では45.5%と減少している。一方、増えているのは20～39歳で、2006年度では10.7%だったのが、2009年度では22.9%と大きな伸びを見せている。
- 2005年度の時点では、40歳以上の構成比が88.1%と、中高年層に偏りを見せていたが、徐々に若年層の構成比が増加していることが分かる。

[過去5年間の年齢別構成比の推移]



- 性別で見ると、過去5年間を通じて女性の構成比が男性を上回っているが、2005年度では男性の割合がおよそ4分の1だったのが、2009年度ではおよそ3分の1となっていることから、男性の構成比は着実に伸びている。2009年度の男性の会員数は1,679人で、前年度の1,173人から1.4倍に伸びた。

[過去5年間の性別構成比の推移]



③ パッケージチケット購入者数

- 過去3年間の自主事業のパッケージチケットの購入者数の推移を見ると、パッケージチケットを開始した2007年度の購入者数96人と比較して、2009年度は350人と、対初年度比では3.6倍となった。また、前年度比を見ると、2007年度対2008年度で2.3倍、2008年度対2009年度で1.6倍と、着実に大きな伸びを見せている。
- 購入セット数でも、2007年度の163セットから2009年度の796セットに、4.9倍となった。また、1人あたり購入セット数では、2007年度と2008年度が1.70、1.69とほぼ同じだったのが、2009年度に2.27に伸びている。過去3年間での1人あたり購入セット数は、2.00となっている。
- 2009年度のパッケージチケットによる購入枚数は、2,110枚となっており、これは鑑賞型事業の販売枚数11,183枚の18.9%を占めている。

[過去3年間のパッケージチケット購入者数実績]

	購入者数		購入セット数		1人あたり 購入セット数
	(人)	前年度比(%)	(セット)	前年度比(%)	
2007年度	96		163		1.70
2008年度	220	229%	372	228%	1.69
2009年度	350	159%	796	207%	2.27
2007～2009	666		1,331		2.00

2. 経済波及効果

(1) 算出方法

- 可児市文化創造センターの運営に伴う経済波及効果としては、①管理運営、②主催事業、③主催事業観客・参加者、④職員人件費から発生する家計消費支出、⑤貸館事業、⑥貸館事業観客・参加者の6種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)を求め、産業連関表に基づいた生産増と、岐阜県の雇用表を用いた雇用効果を試算することとした。

(2) 経済波及効果

- アーラの管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、職員人件費から発生する家計消費支出と観客の消費支出によるものも含め、約5億7,900万円で、そのうち、52.4%にあたる約3億400万円が、岐阜県内での最終需要となっている。
- アーラの管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、職員人件費から発生する家計消費支出と観客の消費支出によるものも含め、約8億6,000万円で、そのうち45.6%にあたる約3億9,200万円が岐阜県内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.48、岐阜県内で1.29である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出

による経済波及効果(岐阜県内のみと想定)は、約3億円で、生産誘発係数は1.32である。

- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約11億6,000万円で、岐阜県内に限ってみると、約6億9,200万円となっている。
- また、岐阜県内の雇用効果は、就業者ベースで約76人、雇用者ベースで約66人である。

[アークの経済波及効果]

	最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 管理業務委託、光熱水費、印刷製本費、消耗品費、賃借料、修繕費、その他	2億4,800万円 (1億1,600万円)	3億7,100万円 (1億4,800万円) 1.50 (1.28)
	②主催事業 公演・出演委託費、技術業務委託費、賃借料、旅費交通費、印刷製本費、その他	1億6,000万円 (3,000万円)	2億6,100万円 (4,000万円) 1.63 (1.31)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	5,200万円 (3,800万円)	7,400万円 (5,100万円) 1.44 (1.32)
	④職員人件費から発生する家計消費支出	1億1,900万円	1億5,300万円 1.29
	小計	5億7,900万円 (3億400万円)	8億6,000万円 (3億9,200万円) 1.48 (1.29)
貸館(参考値)	⑤貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	8,000万円	1億500万円 1.33
	⑥貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	1億4,700万円	1億9,500万円 1.32
	小計(参考値)	2億2,700万円	3億円 1.32
	合計(参考値)	8億600万円 (5億3,000万円)	11億6,000万円 (6億9,200万円) 1.44 (1.31)
	雇用効果 (岐阜県内)	76人(就業者ベース) 66人(雇用者ベース)	

注1) 下段の括弧内の数字は、岐阜県内の最終需要、経済波及効果。職員人件費から発生する家計からの消費支出、および貸館については、最終需要、経済波及効果とも岐阜県内のみと想定した試算結果である。

注2) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

V 施設概要

可児市文化創造センター“ala”施設概要

■施設の規模	敷地面積	33,554.72 m ²
	建築面積	8,743.29 m ²
	延床面積	18,410.87 m ²
	構造	鉄筋コンクリート造及び鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造
	駐車台数	437 台 一般 388 台、身障者用 4 台
		関係者用 21 台（うち大型用 4 台）、身障者用 2 台
		レストラン 一般 19 台、身障者用 3 台

■施設の特徴	二つの多目的ホールと様々な文化創造空間・練習施設を持ち、建設・運営に市民参加を取り入れた総合文化施設
--------	--

■客席収容人数

主劇場（宇宙のホール）

客席総数	1,019 席
	1 階席 691 席
	2 階席 161 席
	3 階席 167 席
オーケストラピット使用時	876 席
	1 階席 548 席
	2 階席 161 席
	3 階席 167 席

この他に車椅子席 4 席

小劇場（虹のホール）

客席総数	311 席
	1 階席 263 席
	2 階席 48 席
スラストステージ使用時	221 席
	1 階席 173 席
	2 階席 48 席

この他に車椅子席 2 席

■諸室

部屋	面積等
音楽ロフト	約 196 m ²
演劇ロフト	約 210 m ²
美術ロフト	約 238 m ²
演劇練習室	約 88 m ²
映像シアター	約 115 m ²
水と緑の広場	約 3,000 m ²
ミキシングルーム・スタジオ	約 41 m ²
映像編集室・スタジオ	約 44 m ²
音楽練習室①	約 27 m ²
音楽練習室②	約 20 m ²
音楽練習室③	約 20 m ²
ギャラリー	約 48 m ²
木作業室	約 70 m ²
ワークショップルーム (洋室)	約 100 m ²
ワークショップルーム (和室)	約 52 m ²
デジタルアート工房	約 48 m ²
レセプションホール	約 235 m ²
控室①	約 20 m ²
控室②	約 13.5 m ²



KANI PUBLIC ARTS CENTER *ala*

財団法人 可児市文化芸術振興財団
アニュアルレポート2009

発 行：財団法人可児市文化芸術振興財団
〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433番地139
TEL: 0574-60-3311 FAX: 0574-60-3312
<http://www.kpac.or.jp>
発行日：平成22年8月